

# 令和7年度事業報告書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

## 1 事業年度内の理事会・総会開催概要

### (1) 総会

#### ①令和7年5月27日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：10名（うち評決委託者2名）／正会員数10名

<報告事項>

監査報告

第13期事業計画について(令和7年4月～)

<決議事項>

第1号議案 第12期事業報告及び第12期決算について

### (2) 理事会

#### ①令和7年4月15日（出席者数:理事6名）

<報告事項>

1. 第12期事業報告

2. 第12期決算見込み

<決議事項>

第1号議案 第13期事業計画及び予算案

第2号議案 代表理事の役員報酬及び賞与

第3号議案 新任理事候補及び正会員について

第4号議案 定時総会に付議すべき事項

<協議事項>

1. おっちラボの法人形態について

#### ②令和7年8月25日（出席者数:理事6名）

<協議事項>

おっちラボの目指すべき方向性について、これまでを踏まえ検討

#### ③令和7年9月19日（出席者数:理事6名 監事1名）

<報告事項>

財務状況報告

<協議事項>

おっちラボの目指すべき方向性

#### ④令和7年10月28日（出席者数:理事6名）

<報告事項>

半期決算報告

<協議事項>

## おっちラボの目指すべき方向性

⑤令和8年1月19日（出席者数:理事6名）

### <報告事項>

財務状況報告(第3四半期)

### <協議事項>

おっちラボの目指すべき方向性(ヒアリング結果を踏まえて)

⑥令和8年2月16日（出席者数:理事6名）

### <協議事項>

おっちラボの目指すべき方向性(ヒアリング結果を踏まえて)

⑦令和8年3月23日（出席者数:理事6名）

### <協議事項>

おっちラボの目指すべき方向性・体制変更について

## 2 事業の概要および成果

### (1) 課題解決人材育成・確保事業

プロジェクト名	主な成果
スペシャルチャレンジ・ホープ伴走支援	申請前の事前相談・伴走を9名に実施。プランに沿った補助金の紹介や、事業計画の作成補助等を行った。最終的にエントリーは1名あり、採択となった。事業伴走や紹介等を行い、採択者は本年度会社を立ち上げ、市内外、国内外問わず事業展開をしている。
Seed～起業型地域おこし協力隊募集～	3名が応募し、都市部でのビジネス経験豊富で地域にキャリア/人材という地域に不可欠なテーマでの「総働」を起こせる人材1名を採択。選考過程における地域キーマンとの深い接続により、既存事業者や住民組織との共創による仕事の開発を軸として、長期的なインパクトを見据えた事業計画の策定を支援した。
Seedラボ	主に6つの課題テーマを設定し、計80回以上の対話やフィールドワークを実施したほか、LLMでは28個のセッションを企画し市内外から延べ238名(LLM申込数)以上が参加し、チャレンジャー同士の協働や地域外企業との連携が加速。単なる学びの場を超え、阿用や木次等の現場を軸とした「地域総働化に向けた創発的対話の場」へと進化した。
ローカルベンチャー協議会	10月のLLM開催により、全国の160名以上のリーダーに雲南のまちづくりのコンセプト「えすこ」「総働」「鎮静化」を発信した。また、Code for Ground等との里山水源環境再生プロジェクトといった外部リソースと地域課題を繋ぐ具体的な協働を創出した。

## 別紙1 「令和7年度課題解決人材育成・確保事業実施報告書」参照

### (2) エネルギー転換への理解促進及び人材育成事業

本事業は、脱炭素社会への転換を「自分事」として捉えてもらうため、啓発活動に留まらない、暮らしに直結した「実践・体感型」の施策を多層的に展開しました。

- 「暖かさ」を肌で感じる断熱改修の実施：座学だけでなく、実際に市内の高齢者宅など個人宅2軒を対象に、窓や床の断熱改修をDIYを交えて施工。冬場の室温変化を数値と体感で可視化することで、住民同士が「これなら自分たちの家でもできる」と具体的に議論し合う場を創出。
- 多主体（地域・事業者・住民）へのアプローチ：地域自主組織や商工会、一般住民といった異なる層に対し、それぞれの視点（地域の維持、ビジネス、家計）に合わせたセミナーを計3回開催。特に地域事業者向けには、エネルギー転換を新たな「ビジネスチャンス」として捉えるモデルを提示。
- 次世代を担う若者への伴走支援：三刀屋高校の探究学習と半年間にわたって連携。高校生が地域のエネルギー課題を調査し、解決策を構想するプロセスを専門家がサポート。大学生向けには雲南の資源を活用したワークショップを行い、若者視点での事業アイデアを引き出した。
- 定量的な意識変容の証明：全工程の事前・事後アンケートを実施。「地域・事業者・学校・住民が連携するイメージ」が持てたという回答が、5段階評価で+0.93ポイントと有意に上昇。単なる知識習得を超え、「誰と何をすべきか」というアクションの解像度を高めることに成功しました。

別紙2 「令和7年度エネルギー転換への理解促進及び人材育成事業にかかる報告書」参照

### (3) 地域づくり支援事業

#### (a) 里山の水源環境改善プロジェクト（阿用）

パタゴニア社の助成金を活用し、阿用の里山の水源エリアを、土中環境から改善するためのフィールドワークとワークショップを実施。生物多様性ガイド・坂田昌子氏と生態学者・土木家の瀬戸昌宣氏を講師に迎え、6月・9月・11月の計5日間で、のべ78名（ユニーク58名）が参加し、湿地帯の再生や竹林整備、道普請などを実施した。その結果、里山の環境改善をしていく人の流れが生まれ始めている。

別紙3 「パタゴニア助成金報告書」参照

#### (b) エネルギー自治

雲南でエネルギー自治を実現する会として、COSMOエコ基金より助成を受け、「市民協働による発電事業を考える会 in 雲南」の取り組みとして、雲南市における再生可能エネルギーの普及と「自分たちの地域でエネルギーを作る」機運の醸成と、市民自らエネルギーの事を考えられるリテラシーの向上を目指した。

- ①市民向けの再生可能エネルギー講座 6回実施（高校生も6名参加）
- ②小水力発電模型の制作（揚水設備も含む） 計29名が参加
- ③小水力発電のワークショップ（勉強会、適地調査、流量調査）を開催  
計16名が参加

別紙4 「2025年度COSMOエコ基金活動報告」参照

(4) 事務代行業

まちづくりに関わる1団体の経理業務等の代行を実施した。

(5) 講師派遣・研修受け入れ事業

7団体の研修（視察）を受け入れた。

3 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益対象者数	事業費 (単位：円)	
					経常収益 経常費用 収支合計	
課題解決人材育成確保	雲南市内	R7.4.1～ R8.3.31	4名	200名	経常収益 経常費用 収支合計	19,085,400 11,318,351 <u>7,767,049</u>
エネルギー転換人材育成	雲南市内	R7.8.1～ R8.2.27	2名	200名	経常収益 経常費用 収支合計	7,930,000 6,443,531 <u>1,486,469</u>
里山水源環境改善プロジェクト	雲南市内	R7.4.1～ R8.3.31	2名	80名	経常収益 経常費用 収支合計	4,444,746 3,844,974 <u>599,772</u>
エネルギー自治	雲南市内	R7.4.1～ R8.2.10	2名	24名	経常収益 経常費用 収支合計	320,000 1,364,037 <u>447,804</u>
講師派遣 研修受け入れ	全国	随時	2名	50名	経常収益 経常費用 収支合計	316,230 70,840 <u>245,390</u>

(2) その他の事業

事業名	事業費(単位:円)	
データプラットフォーム事業	経常収益	0
	経常費用	552,117
	収支合計	<u>▲552,117</u>
業務代行事業	経常収益	792,722
	経常費用	287,802
	収支合計	<u>504,920</u>

以上

# 令和7年度課題解決人材育成・確保事業 実施報告書

特定非営利活動法人おっちラボ

## 【目次】

1. 事業のねらい	2
2. 前年度までの主な実績	2
3. 事業実施体制	3
4. 事業実施内容とその成果	4
4.1. スペシャルチャレンジ・ホープ制度における支援	4
4.2. Seed～起業型地域おこし協力隊による生態系強化～	6
4.3. Seedラボ～起業家・事業家が育ち合うコミュニティの組成及び運営～	10
4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務	27
5. 総括～今後への提言～(佐野)	31

## 主な事業の成果

プロジェクト名	主な成果
スペシャルチャレンジ・ホープ伴走支援	申請前の <b>事前相談・伴走を9名に実施</b> 。プランに沿った補助金の紹介や、事業計画の作成補助等を行った。 <b>最終的にエントリーは1名あり、採択</b> となった。事業伴走や紹介等を行い、採択者は本年度会社を立ち上げ、市内外、国内外問わず事業展開をしている。
Seed～起業型地域おこし協力隊募集～	3名が応募し、都市部でのビジネス経験豊富で <b>地域にキャリア/人材という地域に不可欠なテーマでの「総働」を起こせる人材1名を採択</b> 。選考過程における地域キーマンとの深い接続により、既存事業者や住民組織との共創による仕事の開発を軸として、長期的なインパクトを見据えた事業計画の策定を支援した。
Seedラボ	主に6つの課題テーマを設定し、 <b>計80回以上の対話やフィールドワークを実施したほか、LLMでは28個のセッションを企画し市内外から延べ238名（LLM申込数）以上が参加し</b> 、チャレンジャー同士の協働や地域外企業との連携が加速。単なる学びの場を超え、阿用や木次等の現場を軸とした「 <b>地域総働化に向けた創発的対話の場</b> 」へと進化した。
ローカルベンチャー協議会	10月のLLM開催により、全国の160名以上のリーダーに雲南のまちづくりのコンセプト「 <b>えすこ</b> 」「 <b>総働</b> 」「 <b>鎮静化</b> 」を発信した。また、Code for Ground等との里山水源環境再生プロジェクトといった外部リソースと地域課題を繋ぐ具体的な協働を創出した。

## 1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。今年度「第3次雲南市総合計画」が策定され、そこでも引き続きチャレンジを人材育成の柱としつつ、さらに地域内外の「総働」を謳っている。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～40代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。地域の持続可能性を高めるため過疎地の最前線で取り組むことの価値を高めることで、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。それにより、地域に必要な前向きな変化（変わらないために変わるべきこともある）が起こり続け、若者世代にとって魅力的なまちづくりも可能となる。

このような視点のもと雲南市政策企画部政策推進課が主催して平成23（2011）年から令和3年（2021年）まで開講してきた『幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～』は、地域づくりや地域の課題解決を県内でも先進的な取り組みとして多数の卒業生を輩出してきた。しかし令和4年度以降は、同塾が対象としてきた人材層の発掘は今後は地域コミュニティや他のプログラムに委ねられると判断し、同塾を開講しないこととしており、今年度もその方針に変更はない。

一方で、同塾の上位プログラムとして位置づけ、6期を終えた雲南スペシャルチャレンジ制度（ホープ）（以下「スペチャレ・ホープ」）への申請者数は伸び悩んでおり、案件発掘が課題であるところは過年度と同様の状況であった。そこで、令和4年度試行的に実施したチャレンジコミュニティ創出（起業家・事業家が育ち合うつながり・連携のコーディネーター）を令和5年度にプログラム化し、幸雲南塾経験者など雲南の事業家をゼミ長とするラーニングコミュニティ「Seedラボ」として、多くのチャレンジャーをつなげることを目指すこととした。今期は引き続き「Seedラボ」の学び合いを強化することに努めた。

また、地域外との連携基盤として、今年度も、平成29年度以降継続しているローカルベンチャー協議会の雲南事務局業務を担った。

## 2. 前年度までの主な実績

平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

また平成30年度より、事業化を目指す起業家に資金を提供する雲南スペシャルチャレンジ制度（ホープ）（以下「スペチャレ・ホープ」）の申請者および採択者の伴走支援を行っている。

当法人の強みは県外の事業家／起業家人材との接点であるが、その点をより強化していくために平成29年よりローカルベンチャー協議会のローカル事務局を担い、全国のベンチャー支援団体や自治体、起業家との情報共有を常に行っている。

（参考：当法人設立以前）

平成23（2011）年度 雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー

	養成講座〜』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）
平成24（2012）年度 （当法人設立以降）	幸雲南塾第2期（11名卒業）
平成25（2013）年度	幸雲南塾第3期（11名卒業） 塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立
平成26（2014）年度	幸雲南塾第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立
平成27（2015）年度	幸雲南塾第5期（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）
平成28（2016）年度	幸雲南塾第6期（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）
平成29（2017）年度	幸雲南塾第7期（11組：4法人及び11名卒業） ローカルベンチャー推進協議会にローカル事務局として参画
平成30（2018）年度	幸雲南塾第8期 START（6組7名修了） スペチャレ・ホープ第1期（3組採択）
平成31・令和元（2019）年度	幸雲南塾第9期（4組34名） スペチャレ・ホープ第2期（4組採択）
令和2（2020）年度	幸雲南塾第10期（7組7名） スペチャレ・ホープ第3期（2組採択・7組育成枠）
令和3（2021）年度	スペチャレ・ホープ第4期（2組採択） 幸雲南塾第11期（前期3組・後期8組）
令和4（2022）年度	スペチャレ・ホープ第5期（3組採択） Seed（起業型地域おこし協力隊）（2組採択）
令和5（2023）年度	スペチャレ・ホープ第6期（3組採択） Seed（起業型地域おこし協力隊）（2組採択） Seedラボ（学びの場37回開催、ユニーク195名の参加者）
令和6（2024）年度	スペチャレ・ホープ第7期（3組採択） Seed（起業型地域おこし協力隊）（1組採択） Seedラボ（学びの場41回開催、ユニーク160名の参加者）

### 3. 事業実施体制

平成27年度より市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。

#### <コーディネータープロフィール>

小俣健三郎	（配置理由）1981年東京都生まれ。平成27年5月に雲南市へIターン。東京で弁護士として働いており、ビジネスモデル立ち上げの際に法務的な支援が可能なこと、NPOや社会起業家との人脈があり（新進気鋭のNPOが多数加盟する新公益連盟の監事を務めた）、都市と雲南のパイプ役を担えること。
佐野慎太郎 （業務委託関係）	（配置理由）1995年大阪府生まれ。島根大学卒業後、島根県中小企業家同友会事務局に入局。1年後に独立し、2021年に個人事業主”As it”を開業、2022年に株式会社ゲテモノを設立。2026年1月からまつえ特定地域づくり事業協同組合事務局長に就任。経理、人事労務、経営改善に携わる。

## 4. 事業実施内容とその成果

令和5年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に参考書類を添付

- 4.1. スペシャルチャレンジ・ホープ伴走支援
- 4.2. Seed ～起業型地域おこし協力隊による生態系強化～
- 4.3. Seedラボ～起業家・事業家が育ち合うコミュニティづくりの組成及び運営～
- 4.4. ローカルベンチャー協議会と連携した人材誘致・育成
- 4.5. その他

### 4.1. スペシャルチャレンジ・ホープ制度における支援

#### ① 申請検討者との事前相談

申請をした2名のほか、エントリーはしない方向となったが、9名からスペシャレホープの申請相談・伴走を行った。目的にあった補助金の紹介や事業計画の作成補助等を行い、事業実現への壁打ちを実施。申請検討者のうち数名は翌年度以降に申請を検討する。

氏名	プラン概要	伴走方針
黒田佳吏夫	AIを活用した革新的な教育・人材マッチングプラットフォーム「ENISHI」の事業化	採択者。主に雲南市内で事業を展開できるよう関係者の紹介、接続を実施
佐藤元希	「多世代が集う交流拠点」創出事業	数回の面談の結果、まずは初期投資少ないソフト面の構築から着手。
鹿糠さやか	「田んぼのシェアプロジェクト」	現時点でスペチャレの利用は不要。一年間事業を進めてみる。
大野有紀	「ものづくりに特化したオープンスペース」の設立について	連携する事業所の紹介、物件の紹介を実施。
株式会社マザーテラス 須藤伊世	雲南市で日本で初めて栽培に成功した希少な「超長綿（ちょうちょうめん）」を核とした新規事業	関係事業者へのヒアリング、事業計画を作成。今年度は別の補助金を受けて進める。
猪俣	不動産活用、リノベーション事業	数回の面談の結果、雲南での実施は見送り。
三島ファーム 飯間泰子	上久野の春石地区にある「農業組合法人はるいし」の今後の事業展開について	今年度はスペチャレ申請はせず、一年間事業を進める。
高木奈美	産後ケア事業の拡大	共創委員のため見送り。
曾田周平	企業のバックオフィス業務（事務や管理などの裏方業務）を代行するBPO事業の立ち上げ	面談の結果、今年度雲南市内で実施は見送り

ロバート	雲南市での「学童保育」と「英語教育」サービスの実施	面談の結果、今年度は雲南市内でニーズがあるか探る方針
------	---------------------------	----------------------------

## ② 申請者伴走支援

平成30年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資や寄付、出資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限200万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、**応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援**、および**採択者に対し伴走支援**を実施。また昨年度同様、今年度も共創委員からのご意見を踏まえ、**本審査会前に共創委員からのフィードバックをもらうブラッシュアップ会を開催**するという改善を行った。

また、ブラッシュアップ会での**的確に自身の事業案を伝えられるようにプレゼン講座を企画・開催**(7/3(木)19:00-21:00)。講師は合同会社山田屋代表社員 山田健太郎氏。ブラッシュアップ会に参加されるスペチャレ申請検討者2名にご参加いただき、的確に伝わるプレゼン構成や発表する狙い、ターゲットなどの説明を受けることができた。



### <採択者とプロジェクト内容>

採択者	申請内容
株式会社デジタルツイン総合研究所 黒田佳吏夫氏	公立高校やそこに通う生徒をターゲットに、AIが性格・志向・ライフプランを深掘り・可視化し、個々に応じた豊かなキャリアの選択肢や総合型選抜の対策支援を行うツール、サービスの提供

## ③ 採択者の伴走支援と成果

### <採択前・後における支援内容>

採択者には、**担当者の壁打ちMTG**の機会を設けたほか、地域企業との接続や、県の取り組みとの接続を行った。

採択者	おっちラボの支援内容	採択者の成果
株式会社デジタルツイン総合研究所 黒田佳吏夫氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>雲南市教育委員会、学校教育課へのヒアリングの場を設定。実現可能性に向けて議論を実施。</li> <li>雲南市で高校生へのデジタル教育を進める一般社団法人エンター長谷川 直人氏を紹介。</li> <li>市内でスタートアップ業界に見識のある方を紹介。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内高校の担当教師と協議し、本ツールの導入について議論を進めている。</li> <li>紹介が繋がり、海外での事業展開の話が進んでいる。</li> </ul>

#### ④ スペチャレ・ホープ次年度に向けた案件発掘

近年、スペチャレホープの申請からエントリーに繋がらない傾向があるため、起業や新規事業立ち上げを検討している方向けにプログラム「えすこな起業・創業カリキュラム」を実施した（4.3 Seedラボの項に記載）。

〈参考資料〉

資料1-1：黒田佳吏夫氏 面談議事録

資料1-2：黒田佳吏夫氏 ブラッシュアップ会議事録

資料1-3：黒田佳吏夫氏 地域プレイヤーへのヒアリング

資料1-4：Seed集客に向けての取り組み（Instagramのおっちラボページ）

## 4.2. Seed ～起業型地域おこし協力隊による生態系強化～

### (1) Seedの概要および目的

雲南において地域への社会的・経済的インパクトを与えられる起業案件がまだ不足しているという問題意識のもとで、雲南市外から「雲南で挑戦したい」という人材を獲得する必要が見えてきた。そのため、令和4年度に雲南市として初めて起業型地域おこし協力隊の公募を実施することとし、これまでに5名が着任した。令和7年度も、おっちラボは引き続きこの募集・選考のプロセスにおいて応募者の伴走支援を行った。

インパクトを出す事業をつくるという目的に照らし、雲南地域内でプロデューサー的視点を持つ先輩起業家の力を借りて地域内の連携関係を早期に構築することが有効であると想定し、先輩起業家層からの推薦とバックアップを軸として募集・伴走を行うこととした。

以下の内容の伴走の結果、3名（うち推薦3名）から応募を受付け、全員書類選考通過とし、11月29日（土）に選考会に臨んだ。

### (2) 実施内容

#### ① 公募における企画・コーディネート

- 本制度がGP的人材（自ら覚悟を決めてまちの変化をつくっていく人材）の募集を主眼としていたことから、昨年度に引き続き、「地域から世界を変えるラボ」「変人よ、集まれ。」などの制度のコンセプトは継続することとした。
- また、公募において、「雲南市の起業家生態系のなかですでに柱となっている人材と

協働して、変化の連鎖を生み出す」ことが基本理念となっていたことから、今年度もおっちラボにおいて、幸雲南塾卒業生や過去のスペシャレ採択者と協議した。推薦による応募者は3名であった。

- ローカルベンチャー協議会等のチャンネルを通じて広報活動を実施した。
- 説明会を、9月11日にSeed1期生の吉田氏をゲストに招いて実施し、5名が参加。9月20日には、説明会に参加できなかった2名に個別説明。

### ② 申請書のブラッシュアップ

- 申請にあたっての申請書作成において、事前の依頼があった応募者には、申請書のブラッシュアップを実施した。

### ③ 事業計画作成のためのコーディネート

- 選考会前の事業プランブラッシュアップを目的として、応募検討者や応募者に雲南市を訪れてもらい、フィールドワークを実施した（「Seedラボ」への参加も含め）。雲南市を訪れることが困難な方には、地元の方とのオンラインでのミーティングをセットした。

### ④ Seedプラン発表会に向けた伴走及び運営補助

- 事前に各応募者との面談により、プレゼンテーション内容のブラッシュアップを実施。
- 次年度の地域おこし協力隊の採択に向けた選考会を兼ねて、プラン発表会を以下の概要で開催。おっちラボは運営補助を担った。

日時	令和7年11月29日(日) 9時30分より
内容	<p>9時30分～ 開会</p> <p>1) 北条友美氏発表「雲南キャリアブリッジ」</p> <p>2) 穂井田蒼氏発表「茶で紡ぐ雲南のコミュニティ」</p> <p>3) 宮下由佳氏「発信力アップ地域活性化プロジェクト」</p> <p>4) Seed2期生 岩田翔平氏活動状況報告</p> <p>5) Seed3期生 白石章二氏活動状況報告</p> <p>発表者と来場者との交流会（20分）</p> <p>11時30分 閉会</p>

上記①～④における各人の伴走内容は以下のとおり。

応募者	プラン	コーディネート内容（※写真）
北条友美氏	雲南キャリアブリッジ	<p>9/24 えすこな創業・起業塾#1 参加</p> <p>10/20 プラン内容の確認</p> <p>10/22 ソウルドアウト梅澤氏（デジチャレ運営）、うんなん共創エネルギー平野氏と面談</p> <p>10/23 えすこな創業・起業塾#2 参加</p> <p>10/27 プラン内容のブラッシュアップ</p> <p>11/7 男女共同参画コーディネーター岸本氏と面談</p> <p>11/10 プラン内容のブラッシュアップ</p> <p>11/18-20 雲南市内フィールドワーク</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・えすこな創業・起業塾#3 参加</li> <li>・梅澤氏、平野氏</li> <li>・出雲たかはし 高橋社長</li> <li>・ひまわり福祉会 田本事務局長</li> <li>・LiFull Fam雲南 古谷所長</li> <li>・umi 山下代表</li> <li>・中澤建設 中澤専務</li> <li>・山陰合同銀行 人事部</li> </ul> <p>11/25 プラン内容のブラッシュアップ 11/27 プレゼン練習</p> <p>(プラン発表会にて最優秀となり、着任に向け準備) 12/12 今後のプランニング 12/25 Guesthouse IKIRUでの交流会 12/27 着任時期についての検討</p> 
穂井田蒼氏	茶で紡ぐ雲南のコミュニティ	<p>10/21 面談 10/23 えすこな創業・起業塾#2 参加 10/24 事業プラン壁打ち 10/31-11/2 雲南市内フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あおぞら福祉会・森山氏、かみや園・後藤氏と会食</li> <li>・あよっこ祭り@阿用交流C 出店手伝い</li> <li>・番茶祭り@春殖交流C 見学</li> <li>・まるで抹茶会@松江 カラコロ工房</li> <li>・CNC 矢田代表と会食</li> <li>・野草茶事業の山口氏と会食</li> <li>・松江 加島茶舗 訪問</li> <li>・LoTa@出雲大社 訪問</li> <li>・壁打ち@天野館茶室</li> </ul>

		 <p>11/11 プラン内容のブラッシュアップ  11/14 プラン内容のブラッシュアップ  11/20 プラン内容のブラッシュアップ  11/23 プラン内容のブラッシュアップ  11/27 プレゼン練習</p> <p>※発表会を前に、起業プランとしての申請を辞退し、これまでの探究の経緯を発表することとなった。</p>
宮下由佳氏	発信力アップ 地域活性化プロジェクト	10/21 面談 10/23 えすこな創業・起業塾#2 参加 10/30 プラン内容のブラッシュアップ 11/12 swamp カ石氏と面談 西日登地域自主組織 玉木事務局長と面談 11/20 プラン内容のブラッシュアップ 11/26 プレゼン練習



<参考資料>

資料2-1：Seedプラン発表会での北条さん発表資料

資料2-2：同・宮下さんの発表資料

資料2-3：Seed伴走 面談メモ

資料2-4：Seed集客に向けての取り組み（Instagramのおっちラボページ）

### 4.3. Seedラボ～起業家・事業者が育ち合うコミュニティの組成及び運営～

#### (1) Seedラボの概要および目的

令和4年度に、課題解決事業の“種”をもつ起業家らとのプロジェクト会議を多数回実施したが、令和5年度から、次年度のスペシャレ・ホープへの流入数をより確実にするため、多くのチャレンジャーが参加できる学びの場として、新規プログラム「Seedラボ」を始動した。

Seedラボは、企業、起業家、市民等多様な主体が参画し、立場、役割などの垣根を超え関係性を構築することで、互いに学び合い成長するためのコミュニティ組成を目指した。ただしコミュニティづくり自体を目的とするのではなく、具体的な地域課題を軸に同分野で実践する仲間を集めてプロジェクト化するなかから相互理解や連携が生まれるという想定のもと、昨年度までは、複数のテーマを設定し、それぞれにメンターとなる先輩事業家を「ゼミ長」として配置した。また令和6年度は、インプットを中心とした場だった令和5年度と比べて、メンバー間で対話し、実践する機会となることを目指した。

今年度は、以下のように変更した。

【コンセプト】	課題テーマごとの地域「総働」化に向けた創発的対話の場
【コーディネーター】	おっちラボのメンバー及び理事
【参加者】	過去の幸雲南塾等参加者、地域自主組織、都市部企業人等
【課題テーマ】	当初想定は下図のとおり

## I -1. Seedラボ2025

### 起業家・事業者が育ち合う舞台としての総働のラボ

#### ○進め方

1. 各テーマのキーマンからヒアリングして、関わりのある市民等をリストアップする。
2. 関わりのある市民等にもヒアリングして、悩み・苦悩・願いを聞き出す。
3. 各テーマでオープンな市民向け勉強会や拡大作戦会議を企画する（全体で10回程度）。
4. リストにいる人で勉強会のテーマに合いそうな方を誘う。
5. 3の機会に、相互理解が進み連携可能性が高まる対話を行う。

※ 総働は設計を超えるので「人（の物語）との出会いの中でコトが創発される」ことを目指す。



#### (2) テーマの選定理由

テーマは、雲南市の共通課題あるいは産業の軸となる資源から選定した。

##### ①街並み再生&空き家コモンス化

木次駅前商店街は、雲南市の玄関口であるが近年シャッター通り化が著しく、増えていく

空き店舗を活用した街並み再生が求められてきた。そこでシェアオフィス・オトナリの運営会社であるたすき株式会社、地域おこし協力隊で一級建築士の小堀祥仁氏、及び合同会社遠足計画（代表が当法人理事の石原達也）が旗振り役となり、地域自主組織をはじめとする住民とともに「木次本通りエリアプラットフォーム」の立ち上げが準備されている。これを起点として商店街エリアの総働が生まれつつあり、これを進めていくプロセスが、雲南市にとっての象徴的なモデルとなりうると考えた。

## ②農×関係人口拠点創出

市内に広がる農地は雲南の重要な資源である。木次乳業の有機農法の伝統もあり、雲南には農ある暮らしを求めて移住する人も後を絶たない。しかし全体としては高齢化と後継者不足により、農の放棄が進んでいる現状であり、持続可能な農のシステムを構築することが急務である。他方、たたら製鉄の舞台となった豊富な里山を空間として活用し、エコツーリズムやヘルスツーリズムを組成していけるポテンシャルはあるはずである。

そこで関係人口とともに農と里山を再生していく実践モデルづくりをテーマとして選定した。フィールドは、地域自主組織や米の六次産業化を行う合同会社宮内舎、さらにSeedとしてゲストハウスを立ち上げた吉田勇輝氏などを中心として、米づくり体験・里山整備から関係人口との共創が生まれ始めている阿用地区を選定した。

## ③広葉樹循環による里山保全スキーム

雲南市の大部分を占める里山は、所有者や森林組合にだけでは管理が行き届かず、荒廃して公益的機能が弱まっていく恐れがある。荒廃を防ぐためにも、「里山を目的を持って活用し、活用のために整備することで、経済も生まれる」というサイクルが生まれる必要がある。そこで、里山を雲南コミュニティ財団などの公益団体が共同管理し、里山整備によって生まれる木材をグリーンパワーうんなんに買い取ってもらうというスキームについて、関係者とともに検討していくこととした。

## ④モビリティ&共助システム

雲南市のモビリティ課題において、市が運営する住民のニーズに合わせたデマンドタクシーにより一定の高齢者のニーズがカバーされているものの、たとえば社会教育、観光、ナイトエコノミーといった幅広い市民ニーズには対応するのは困難である。さらなる官民連携が必要と考えられるため、現状の調査や関係者の啓発を目指し、本テーマを選定した。

## ⑤地域の人事部（人材×事業）

地元企業が抱える「人手不足・後継者不足」の悩みと、市外へ戻りたい若者が抱える「就職先がない」の悩みは深刻である。「若者を活かす経営」へのシフトによって、人と事業がともに成長していく土壌ができると、雲南市の産業にとってレバレッジの効く影響を及ぼせるため、本テーマを選定した。

※エネルギー自治は、別財源（民間助成金）で運営したため、本事業報告の対象外とした。

## ⑥えすこな起業・創業カリキュラムin雲南

この講座で目指すのは、自分も関係者も幸せになる「えすこ(\*)な創業」。規模が小さいがゆえに置き去りにされているニーズや、人手不足のために活かされていないリソースが、地方には数多く存在している。本講座では、起業という行為を「自分の思いやリソースを活かして、誰かの役に立つ仕組みをつくること」と捉え、参加者が自分の内面と向き合いながら、社会との接点を見つける。その中で、雲南市内におけるリソースの共有と、有形無形含めた地域資源の活用方法について学ぶ。そうした環境を活用した「雲南だからできる事業」の実現を、一緒に目指す講座を開催。

詳細は別紙「資料3-2 R7年度報告書-えすこな起業・創業カリキュラムin雲南」に記載。

### (3) 各テーマラボの実施内容及び結果

#### A) 関係者との対話

##### ①街並み再生&空き家コモンス化

4月18日	たすき(株)による和田邸改修資金調達：SIIFと無議決権株式スキーム検討
5月23日	たすき(株) 和田邸改修資金調達
6月12日	弁護士、たすき(株)：無議決権株式スキーム構築支援
7月13日	アンダーデザイン(株), 三新塔住民：物件活用案ワークショップ
7月18日	地域自主組織・新氏、遠足計画・石原氏：プラットフォームの役割
8月21日	たすき(株)ほか：10月カンファレンス参加者との協働作業（椅子づくり）
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2 【三新塔フィールドワーク】を開催（下記Cに詳述）



##### ②農×関係人口拠点創出

4月4日	明治大学・川島研究室の講座と阿用の連携
4月10日	明治大学川島研究室の講座と阿用の連携
4月11日	(株)雨風太陽・高橋社長：雲南との連携
4月14日	明治大学学生・院生の阿用でのフィールドワーク調整 Code for Ground 里山整備活動と土中環境測定との連携
4月17日	明治大学学生・院生の阿用でのフィールドワーク調整 (株)雨風太陽・高橋社長：雲南との連携
4月20日 ～24日	明治大学学生・院生の阿用でのフィールドワーク：地域自主組織歴代会長、あおぞら福祉会、宮内舎、GuesthouseIKIRUなど

5月9日	明治大学川島研究室と宮内舎の対話
5月22日	Code for Ground 阿用での土中環境測定について
5月30日	森林療法体験 by 森と魔法・平井さん
6月4日	宮内舎、明治大学川島研究室：地域デザイン案の中間報告
6月3日	里山照らし隊・堀江さん：民谷地区・草刈り応援隊の発展
6月12日	アルプロン奥村取締役：農作物の販路開拓
6月16日	宮内舎、うんなん共創エネルギー：阿用地区での連携
6月23日	(株)雨風太陽・高橋社長ほか経営陣、地域おこし協力隊・中村氏、(株)NTT-ME・小磯氏など：雲南で本質的な関係人口戦略モデルをつくる連携（ふるさと住民登録、大企業での仕組み化等）
7月3日	里山照らし隊・堀江さん：民谷地区・草刈り応援隊のイベント企画
7月14日	民谷地区の住民：民谷地区・草刈り応援隊のイベント企画
8月6-8日	明治大学学生・院生の阿用でのフィールドワーク：宮内舎、IKIRUと対話
8月23日	民谷地区草刈り応援隊・宇山集落・民谷集落の合同開催 → 代表影山氏と今後の連携協議
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2 【阿用フィールドワーク】 【民谷フィールドワーク】 【えすこな農】セッションを開催（下記Cに詳述）
10月24日	ネイチャープレナージャパン財団・山内氏：ネイチャーポジティブ関連資金調達およびフェローシップ制度
11月1日	明治大学川島教授：広島国際建築祭で阿用に設置予定の建築を見学
11月6-7日	「阿用の里山を活かした経営合宿」プロトタイピング：(株)NTT-ME、(株)雨風太陽をゲストに、宮内舎、IKIRUと連携して実施
11月14日	(株)雨風太陽・星氏：二地域居住の推進交付金活用
12月4日	エンター・杉村代表：二地域居住推進
12月9日	明治大学学生の活動とネイチャープレナー財団フェローシップ活用
12月17日	雨風太陽・星氏、中村氏など：二地域居住推進交付金 加藤完一商店・藤原氏：関係人口滞在拠点
12月19日	建築士・小堀氏、宮内舎、IKIRU：里山と農のある暮らしにおける建築デザインの関わり
1月15日	阿用地区内空き家巡り：宮内舎、IKIRU、NTT-ME、うんなん共創エネ、ストット氏

1月17日	山王寺振興協議会・島根大学サークル結：農業課題の共有・共創できそうなこと模索
1月30日	(株)雨風太陽, JAL, CCC, リクロス, NTT-ME：大企業と地域のかき混ぜ方
2月4日	大山流域チーム、宮内舎、うんなん共創エネ：大山～出雲流域連携
2月6日	民谷：城垣野むらさき栽培の来年度の連携
2月19日	宮内舎：流域再生型農業の今後の連携協議
2月20日	あおぞら福社会・森山氏、阿用地区の自治会長；物件の活用案
2月24日	出雲國たたらガイドの会・浜田氏、宮内舎：蓮華寺の土地の歴史
3月4日	ストット氏：蓮華寺での原初舞踏指導（研修コンテンツの案として）
3月12-13日	アグリツリー：西様ソーラーシェアの説明会&現地調査



### ③広葉樹循環による里山保全スキーム

5月28日	WOODSHIP船木さんヒアリング
5月5日	森林専門家・山元周吾さんヒアリング
7月15日	グリーンパワーうんなん、遠足計画、うんなんコミュニティ財団、林業振興課：広葉樹活用スキームの進め方
8月27日	WOODSHIP船木氏、遠足計画・石原氏、宮内舎・小倉氏：雲南の里山保全活動の持続可能なしくみ
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2【えすこな里山】セッションを開催（下記Cに詳述）
2月4日	船木氏、宮内舎：阿用エリアの里山活用での連携

#### ④モビリティ&共助システム

6月3日	おたがいさま雲南・田中代表：共助の総働
8月4日	(株)Re・福島代表：掛合エリアでの買い物/モビリティ支援
9月2日	バイタルリード福井執行役員、雲南市交通政策室、うんなん共創エネルギー：地域住民と連携した交通システム
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2【波多/松笠フィールドワーク】【鍋山フィールドワーク】【えすこなモビリティ】【えすこな共助】セッションを開催（下記Cに詳述）
2月9日	交通えすこ会議参加：地元交通事業者のニーズ把握

#### ⑤地域の人事部（人材×事業）

6月2日	(株)出雲たかはし・高橋社長：人材の活用について
6月11日	(株)musuhi・野崎代表：地元企業の進化プロセス
6月12日	(株)Zebras&Company・田淵代表：ローカルゼブラの育成
6月13日	(株)UMARI・古田代表：地元企業の進化プロセス
7月16日	(株)出雲たかはし・高橋社長：“えすこユニバーシティ”のあり方
7月21日	(株)musuhi・野崎代表、(株)うんなん共創エネルギー・平野取締役、(株)CNC・矢田代表など：地元企業の変容プロセス
7月23日	(株)Zeburas&Company・田淵代表：地元企業の変容プロセス
8月1日	幡屋便利軒・杉原氏、(一社)umi・山下代表など：地元企業と人材の共進化プロセス
8月13日	Bistro aube・多々納氏、幡屋便利軒・杉原氏、(一社)umi・山下代表など：地元企業と人材の共進化のための40代後半世代のチャレンジ
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2【えすこな人材×事業】【えすこな働き方】セッションを開催（下記Cに詳述）
12月8日	幡屋便利軒・杉原氏、(株)デーテク・武田氏など：カラオケ喫茶構想
12月17日	幡屋便利軒：地元企業の進化プロセスなど
12月25日	幡屋便利軒, umi山下氏：カラオケ喫茶構想
2月5日	エンター・杉村氏：若年層の育成と事業者のチャレンジの統合



## ⑥その他

6月26日	たなべたたらりの里・福留取締役：吉田町・奥出雲広域連携の可能性
6月27日	太田直樹氏、(株)Zebras&Company・田淵代表：雲南市でのnローカルゼブラ支援の可能性
7月25日	(株)たなべたたらりの里・福留取締役など：吉田町～奥出雲での地域連携
8月26日	鉄の歴史村振興財団・岩城氏：文化振興における地域と企業の連携
9月10日	(株)たなべたたらりの里・福留取締役など：吉田町～奥出雲での地域連携
10月8日	ローカルリーダーズミーティングDay2 【吉田フィールドワーク】を開催（下記Cに詳述）

## B) オープン（または招待による）勉強会

### <えすこな起業・創業探究プログラム>

日程	内容、ゲスト等	参加者
第1回 9/24	"えすこな創業"について	7名
第2回 10/23	マネタイズポイントについてケーススタディ	7名
第3回 11/18	事業プラン壁打ち メンター：雲南経済新聞・白石章二氏、山田屋・山田健太郎氏、政策推進課・武田氏、佐野、小俣	7名
第4回 2/25	温泉津視察 スピーカー：小川商店・小川知興氏、WATOWA近江雅子氏、合同会社現象舎 西田優花氏	5名

企業検討中の方、小さく事業を始めている方、県内に移住予定で起業家のコミュニティを探している方にご参加いただきました。また、創業検討段階においてどのような機会や情報が必要かなどを聞くため、都度参加者にヒアリング兼面談を実施。相互に本プログラムを創り上げる形となった。



### <その他>

日程, 会場	内容、ゲスト等	参加者
4/24@阿用交流C	明治大学川島研究室の阿用地区FW結果について意見交換会	12名
6/10@阿用交流C	土中環境・生物多様性・プラネタリーヘルス ゲスト：坂田昌子氏(生物多様性ガイド)、瀬戸昌宣氏(生態学者)、桐村里紗氏(地方創生医)	27名
6/27@宮内舎等	阿用の水源環境改善・土壌測定体験版 ゲスト：Code for Ground 太田直樹氏・山口有里氏	9名
7/21 @みんなのお家	完熟堆肥によるコミュニティデザイン ゲスト：鴨志田農園・鴨志田純さん	2名
8/6 @阿用C	明治大学川島研究室の阿用地区地域デザイン案について意見交換会1	7名
10/23 ☆ @三日市ラボ	脱炭素のまちができていく仕組みとは～滋賀と雲南の活動から～ ゲスト:平岡俊一(滋賀県立大学環境科学部)、NPO法人気候ネットワークほか	3名
11/23 @阿用C ☆	明治大学川島研究室の阿用地区地域デザイン案について意見交換会2 ゲスト: 坂田昌子氏(生物多様性ガイド)、瀬戸昌宣氏(生態学者)	19名
3/11 @ピコテラス	雲南の「キャリア共育」を考える ゲスト：NPO法人エル・コミュニティ 竹部美樹氏ほか	5名
3/18 @三日市ラボ ☆	東近江市から学ぶ環境活動      ゲスト：NPO法人愛のまちエコ倶楽部 園田由未子氏ほか	4名



**C) ローカルリーダーズミーティング（10/7~9開催）でのセッション** ※告知用案内文より  
（資料4-1、8-17頁）

**<経緯>**

Seedラボのコンテンツを数日に凝縮して同時開催することで、多くの関係人口との共創が生まれる機会にできるという仮説のもと、昨年度「やおよろずの変人迎え祭」として3日間のツアーを開催したところ、共創人口が生まれるという手応えを得た。今年度は、これをさらに拡大し、ローカルベンチャー協議会（4.4参照）の活動の一環であるローカルリーダーズミーティングの機会を活かして開催することとした。

## <コンセプト>

第3次総合計画に「総働」「えすこ」といった言葉がうたわれていることを踏まえ、単に新しいものを外から雲南に取り入れるのではなく、雲南の人々が日々目の前の課題に真剣に取り組んでいることをベースにして、どのような外部との共創がありうるのかを考える機会とした。そのため、一般的なカンファレンスと比べて、雲南市内で活動している人が多く登壇する場となり、また市内からの参加者も約100名となった。

## <セッション内容>

### Day1 (10/7)

<p><b>オープニングセッション</b> ～雲南から考える、地方創生のこれまでとこれから～</p>	<p>地方創生が掲げられて10年が経ったいま、次の10年全国のローカルリーダーたちと考える3日間の幕開けです。雲南が今向き合っている問い「えすこ」「総働」「鎮静化」を切り口に、3日間を過ごす視点を得ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雲南の地方創生「ソーシャルチャレンジバレー」の10年の達成と課題</li> <li>・雲南市新総合計画のビジョンや策定プロセスにみる、新たなローカルリーダー像</li> <li>・キー概念「えすこ」「総働」「鎮静化」と“一流の田舎”の関係</li> </ul>	<p>[登壇者] 雲南市政策企画部・課長 鳥谷健二 元雲南市政策企画部長 佐藤満CNC 矢田明子 雨風太陽 高橋博之 [進行] 雲南市地方創生アドバイザー 山元圭太</p>
<p><b>ローカルリーダー座談会</b> ～ローカルリーダーのこれまでとこれからを聴く～</p>	<p>雲南と全国のローカルリーダーたちが、それぞれのこれまでとこれからを語ってみます。そこに流れる「えすこ」「総働」「鎮静化」のエッセンスを探ってみましょう。</p> <p>地域自治、起業支援、教育、企業×地域などの切り口でグループに分かれての座談会。</p> <p>雲南と全国のローカルリーダーたちの振り返りとこれからの話を「聴ききる」時間です。</p> <p>「えすこ」「総働」「鎮静化」の感覚を深掘りしていきます。</p> <p>第1ターム 雲南のローカルリーダーと語る 第2ターム 全国各地のローカルリーダーと語る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲南市のチャレンジを支えてきた方々</li> <li>・全国でローカルベンチャーを支えてきた方々</li> </ul>

<p><b>【第1ターム】</b> 地方創生第1期で立ち上がった「雲南ソーシャルチャレンジバレー」。その担い手が、この10年の達成と積み残し、これからのあり方を語ります。</p> <p><b>A) 子どもチャレンジ:</b> 高校生のキャリア教育や探究学習を、学校教育の内・外で実装させてきました。</p>	<p>&lt;キャリア教育・探究学習&gt; スペチャレジュニア経験者/深田裕紀乃/加武美咲/秦美貴、一般社団法人ine/山田雄介、雲南市教育委員会/武田遼太 [聞き手] 気仙沼まち大学運営協議会/成宮崇史</p>
<p><b>B) 若者チャレンジ1:</b> 大学がない雲南で大学生の学びの場として実施してきたフィールドワークや実践型インターンなどを、コーディネート団体と関係者で語ります。</p>	<p>&lt;大学生×地域&gt; 一般社団法人umi/山下実里、雲南市教育委員会/須山雄介 [聞き手] 雲南市政策企画部/山岸美貴</p>
<p><b>C) 若者チャレンジ2:</b> 若者たちのプロジェクトや起業支援を応援してきた「幸雲南塾」「スペシャルチャレンジ」を、起業家と中間支援組織で語ります。</p>	<p>&lt;課題解決×起業&gt; 光プロジェクト株式会社/杉村卓哉、NPO法人おうちラボ/小俣健三郎、雲南市市民環境部/松蔭佳子 [聞き手] うなん共創エネルギー/平野貴大</p>

<p><b>D) 大人チャレンジ：</b> 全国でも注目される住民主体の「小規模多機能自治」を実践してきたトップランナーに語ってもらいます。</p>	<p>&lt;地域自治&gt; 地域自主組織連絡協議会／秦美幸、波多コミュニティ協議会／木村守登、雲南市政策企画部長／板持周治 [聞き手] 合同会社遠足計画／石原達也</p>
<p><b>E) 企業チャレンジ：</b> 2019年にスタートした、都市部企業が雲南をフィールドに地域課題解決の実装を目指す取り組みです。地域住民の笑顔を軸に「5方よし」を掲げてきました。</p>	<p>&lt;大企業×地域&gt; たすき株式会社／岡晴信、雲南市政策企画部／武田堅治、株式会社ソウルドアウト／梅澤宏徳 [聞き手] NPO法人エティック／山内幸治</p>
<p><b>F) まちづくり政策：</b> 2004年の合併以後、「協働のまちづくり」、「住民自治」、「チャレンジ」、そして新総合計画での「総働」へと軸を更新してきた背景を語ります。</p>	<p>&lt;雲南市役所&gt; 元雲南市政策企画部長／佐藤満、雲南市政策企画部・課長／鳥谷健二 [聞き手] NPO法人エティック／押切真千亜</p>

【第2ターム】

<p><b>【久万高原町】</b> 久万高原町の地方創生って実際のところどうなの？「ローカルベンチャー協議会との出会いと既存のプレイヤーたち」</p>	<p>幹事自治体の中でも他とは違うアプローチで取り組んできた久万高原町の地方創生は成功？失敗？中間支援組織ゆりラボの誕生から住民の自由な発想や行動、外部人材が集まる状況も、当初からかかわってきた行政職員と中間支援メンバーが互いの目線で振り返ります。そしてこれからの久万高原町がどのように未来に進むのかを語ります。</p>	<p>久万高原町役場・伊藤敦志、ことばとつくる・酒井大輔、地域おこし協力隊伊藤彩乃・山崎正太郎</p>
<p><b>【厚真】</b> 新たな仲間と育む“自走する地域”一次の10年を描く地域コミュニティの未来ー</p>	<p>人口減少が進むなか、北海道厚真町ではこの10年、起業家や新規就農者など多様な移住者が挑戦を重ね、新しい芽が育ってきました。 しかし一方で、地域コミュニティとの関わりが薄れ、移住者と地元住民の間に距離が生まれつつあるのも事実です。 今回の座談会では、 1.コミュニティに属さなくても暮らせる時代に、地域コミュニティは本当に必要なのか。 2.移住者と住民が共に地域をつくるにはどんな仕組みが必要か。 3.「自走する地域」を厚真で再現し、広げることは可能か。 島根県雲南市の地域自主組織の実例を参考に、これからの10年を一緒に考えましょう。</p>	<p>厚真町役場：矢代直樹、北川桂 株式会社エーゼログループ厚真町支社 山口和秀</p>
<p><b>【気仙沼】</b> チャレンジが生まれ繋がり続ける生態系をどう豊かにしていくか？～気仙沼まち大学構想の成果とこれからについて～</p>	<p>宮城県気仙沼市では2016年に「気仙沼まち大学構想」を立ち上げ、市内で様々なチャレンジが生まれる環境を整えてきました。単純な人材育成プログラムを作るだけでなく、しっかりと町全体の生態系が豊かになっていくよう”人”に焦点をあてそれぞれのステップやフェーズに合わせた丁寧な仕組みを作ってきました。前半では気仙沼の現状を共有した上で、ローカルベンチャー含め様々な起業・創業が生まれてきた今、その事業がどのように地域に根付き、拡大していくのか、創業後のサポートや生態系づくりについて、雲南からヒントをもらいながらセッションを進めていきたいと思っています。</p>	<p>気仙沼まち大学運営協議会・成宮崇史、同・志田淳</p>

<p><b>【西栗倉】</b> 「次の10年」への 変容～西栗倉村の 歩み挑戦</p>	<p>西栗倉村は、過去10年にわたり多様な挑戦を積み重ね、地域の可能性を広げてきました。いま村は、行政と民間・住民がそれぞれの役割を模索しながら、進化し続けるフェーズにあります。座談会では、「これから」の変化の背景にある葛藤や、そして次の挑戦への視点を共有。抽象的な成功例ではなく、変わり続ける現場のリアルを、行政担当者の経験を通して語ることができればと思います。雲南での「えすこ」「協働」のエッセンスを含めながら、参加者自身の地域の未来や「進み続ける力」のヒントを考えます。</p>	<p>西栗倉村役場・藤川達也</p>
<p><b>【錦江町】</b> 役場の変容からは 始める、挑戦と応援のまちづくり～ 錦江町では今、何が起きているのか～</p>	<p>錦江町は2023年からローカルベンチャー協議会に参画。地域で挑戦するローカルベンチャーを輩出するために、まずは「役場の応援力を高める」取り組みを進めてきました。</p> <p>まずは、役場職員が町内の挑戦を支え、協働する力を身につけるため、自らの問題意識をもとにプロジェクトの立ち上げから事業化までを行う2年間の研修を実施。課を横断する「地方創生推進班」を組織し、15名の職員が参加しました。その結果、4つのプロジェクトが誕生し、うち2つが事業化しています。</p> <p>さらに、急速に発展するAI技術に対応するため、職員3名による「AI検証班」を立ち上げました。AIを活用した業務改善の実践を通じて、単なる業務効率化にとどまらず、内発的な使命感で行動する職員のチームを形成。人材不足の中でも、行政職員が「人にしかできない未来開拓」に時間と意志を向けられる環境を整えています。</p> <p>当日は、これらの実践例を分かち合い、難易度が極めて高い「行政改革」というテーマに希望はあるのかを考えます。</p>	<p>株式会社エーゼログループ・大井健史 錦江町役場・木下勝幸、小川純一</p>
<p><b>【ETIC.】</b> ローカルベンチャー10年の軌道から未来へ～生まれた成果や変化を考えながら、次の戦略作りに向けて必要な問いを探る～</p>	<p>10年前、地域での挑戦は「都落ち」と揶揄されることもありましたが、現在では多様なプレイヤーが生まれ、事業共創やプラットフォーム形成が進むなど、地域事業を取り巻く環境は大きく変化しました。</p> <p>しかし、人口減少や産業衰退など、地域の持続性には依然として困難な状況が続いています。本座談会では、これまでのローカルベンチャー事業を通じて築き上げてきた資産、一方で実現できなかったことを振り返ります。</p> <p>その上で、次の10年に向けたパラダイム転換をどのように見出すべきか、議論を深めます。今回は、先進事例の共有や結論を導き出す目的ではなく、次の10年を考えるために、どのような問いに向き合うことが必要なのかを共に探求します。</p>	<p>西栗倉村役場 萩原勇一 気仙沼まち大学運営協議会／合同会社気仙沼の人事部／気仙沼ジョイントワークス協同組合 小林峻 たすき株式会社 代表取締役 岡晴信 SIIF常務理事 工藤七子 ETIC. 伊藤いずみ</p>



## Day2 (10/8) AM

<p>～地域を歩いて考える“総働”の始め方～</p>	<p>どの地域にも、さまざまな課題が折り重なるように存在しています。今回訪れる6つの地域には、それぞれ異なる主なテーマがありますが、実際にはどの地域の現場も、多様なテーマと深くつながっています。</p> <p>このフィールドワークでは、地域の方々が取り組む姿勢やまなざし、静かな語りのなかに潜んでいる、「鎮静化」や「総働」のヒントを探ります。提案したくなる気持ちを脇において、よく「見る」、よく「聴く」ことに集中してみてください。</p> <p>それらを受け取る私たち自身のあり方にも、気づきや学びがあるはずで、どの地域に足を運んでも、共通して得られるものがきっとあります。</p>	
<p>三新塔</p>	<p>かつて300店舗が並んだ木次駅前の商店街は、雲南市の玄関口。この数年、空き店舗の再活用も少しずつ増えてきました。地域自主組織による空き家対策の検討会、都市部ベンチャーの立ち上げたコワーキングスペース、賑わいを取り戻すさまざまなイベント、建築チームによるリノベーション、DIYプロジェクト、空き家の集約化...さまざまな取り組みが交錯する木次駅前を「総働」で再生していく動きの始め方を、体感してみましょう。</p>	<p>[地域案内人]          合同会社遠足計画／石原達也          たすき株式会社／岡晴信          雲南市起業型地域おこし協力隊／小堀祥仁          力石縫製 swamp / 力石淳          [聞き手] NPO法人おっちラボ／佐野慎太郎</p>
<p>阿用</p>	<p>宍道湖に注ぐ斐伊川の支流の始まりとなる阿用地区の里山。地元の米粉製品を販売する宮内舎と仲間たちは、里山、そこから流れ出る水、そして田の循環を学べる時間を提供し、阿用地区の関係人口を生み出しています。米作り体験や生物多様性改善の活動、ゲストハウス、ツーリズムといった取り組みにより、山・川・里を地域住民と訪れる人が一緒に守っていく「総働」の兆しを体感してください。</p>	<p>[地域案内人]          合同会社宮内舎／小倉綾子          Guesthouse IKIRU／吉田勇輝          [ゲスト]          株式会社New Stories／太田直樹          川島範久建築設計事務所／川島範久          [聞き手] NPO法人エティック／押切真千亜</p>
<p>鍋山</p>	<p>鍋山地区の地域自主組織は「最期まで暮らせる鍋山」を目指して、見守り、温泉運営、農業振興、移動支援など、住民に必要なことに幅広く取り組み、収益事業も手掛けてきました。令和6年にワーカーズコープ「労働者協同組合うんなん」を設立して、事業部門を移行。多彩な担い手の参加とエリアにとられない活動も可能になりました。自治を「共創型」にしていくための最適な地域の体制とはなにか、考えてみます。</p>	<p>[地域案内人]          躍動と安らぎの里づくり鍋山／秦美幸          [ゲスト]          おたがいさま雲南／田中学          雲南市地方創生アドバイザー／山元圭太          [聞き手] NPO法人エティック／伊藤いずみ</p>

<p><b>波多／松笠</b></p>	<p>雲南市の中心部から離れた地域では、地域の買い物支援を担っていた商店機能の存続や、モビリティ格差による教育格差が議論されています。そんな課題を、複数の地域自主組織間の広域な連携で、また大学生インターンにも参画してもらいながら、共助を支える「総働」が始まりそうです。</p>	<p>[地域案内人] 波多コミュニティ協議会／藤原美幸 松笠振興協議会／石橋生久美 [ゲスト] 雲南市 地域振興課／大谷吾郎 [聞き手] 株式会社うなんん共創エネルギー／平野貴大</p>
<p><b>民谷</b></p>	<p>雲南のなかでもっとも山間にある宇山集落では、8年前に「草刈り応援隊」というイベントを始めました。毎年3回、集落の草刈りをし、美味しいお米を食べるこのイベントに県外も含む20～30名が集まります。令和6年度にはしまね景観賞も受賞しました。宇山集落が地元の担い手を起点としながら、地域外も含めた「総働」をさらに進めていく様子を見てください。</p>	<p>[地域案内人] 里山照らし隊／影山邦人・堀江智浩 [聞き手] 株式会社NTT-ME／小磯知之 NPO法人おっちラボ／中谷遥翔</p>
<p><b>吉田</b></p>	<p>数百年間たたら製鉄を担ってきた山林王・田部家は、いまでも地域振興の担い手です。林業、建築、たたら製鉄の復活、森林アスレチックなど旧吉田村の森林資源を活用し、地域に貢献してきました。そんな田部家は、地域とともにこれからどんなことに取り組んでいくのでしょうか。吉田村のキーパーソンたちとの対話が始まっています。</p>	<p>[地域案内人] 株式会社たなべたたらの里／福留周一・井上保樹 公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団／岩城こよみ [ゲスト] 奥出雲町議会議員／落合孝行 株式会社石見銀山群言堂グループ／松場忠 [聞き手] NPO法人おっちラボ／小俣健三郎</p>



**Day2 (10/8) PM**

<p><b>【えすこな農】～地域内外の知恵を集めて、次世代型の農業を探る～</b></p>	<p>地域の隅々まで広がる美しい田んぼは、景観・食料生産・鳥獣害防止などさまざまな意味で地域の資産です。担い手の減少が深刻になるなか、付加価値を上げる、地産地消のバリューチェーンをつくる、関係人口とともにつくる、環境配慮や資源循環といったアプローチで、まだまだやれることがあります。先祖から受け継いできた土地を未来につなぐため、「総働」で地域の農の未来を考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社アルプロン 取締役 奥村嘉朗</li> <li>・農学博士／金子信博</li> <li>・コンポストアドバイザー／鴨志田純</li> </ul>
<p><b>【えすこな里山】～里山と暮らしの循環を取り戻す、“我が山”のビ</b></p>	<p>里山は私たちの命と暮らしを支える源です。言葉にすることも難しい土と水と生物の循環の偉大さに魅せられた市民が、自分の大切な里山の美しい未来を描き、実践を始め、かかわる人の輪を広げています。彼らのビジョンに導かれたムーブメントを、持続的に支えていくために「総働」の</p>	<p>合同会社宮内舎／小倉綾子 WOODSHIP／船木海 一般社団法人Bisui Daisen／大原徹 一般財団法人西粟倉むらまろご</p>

<p>ジョン～</p>	<p>議論が始まっています。</p>	<p>と研究所／秋山淳 一般社団法人コモンフォレスト ジャパン／藤井芳広</p>
<p>【えすこなモビリティ】～民間でできる交通システムの可能性を探る～</p>	<p>福祉、教育、観光といったさまざまな活動の鍵になるモビリティ。公共交通だけでなく、地域の様々な事業者が連携する必要のある大きなテーマです。助け合いとしての乗り合い、地域自主組織による移送サービスをさらに一歩進めて、それぞれの得意な役割を活かす連携によって、移動の困難に立ち向かってみたい。地域内外の事例をもとに対話をします。</p>	<p>株式会社バイタルリード／福井のり子 暮らしの交通株式会社／田島颯 労働者協同組合33／和久利健</p>
<p>【えすこな人材×事業】～ローカル企業の挑戦と若者育成の好循環～</p>	<p>雲南でも力を入れている地域でのキャリア教育やインターンシップにより、地元に関心をもつ学生が増えてきました。他方で地域の企業では人手不足が深刻になってきています。この間をつなぐ、人材教育と事業革新の好循環をつくりたい。教育事業の関係者、ローカル事業者、人材支援団体で議論し、歩むべき方向性をみつけます。</p>	<p>幡屋便利軒／杉原雅也 一般社団法人umi／山下美里 平安伸銅工業／竹内香予子 musuhi / SELF / 野崎恭平 Zebras &amp; Company / 田淵良敬</p>
<p>えすこな働き方ってなんだろう？～全国の“特地”と語る、地域でつくるちょっといい仕事と暮らし</p>	<p>人口減少に伴い、地域での労働環境も変化していく必要があります。フルタイム就労というこれまでの労働形態から、複業型、パラレルワーク型、リモートワーク型、個人事業型と様々な関わり方を複雑に組み合わせることが求められています。そのためには、地場企業がそれぞれで取り組むのではなく、地域ぐるみでの働き方のリデザインと関わりしるの提示・発信をしていく仕組みづくりが求められます。「地域の人事部」や「特定地域づくり事業協同組合制度」、「地域おこし協力隊」など、様々な施策を包括的に捉えてどのように仕組みを整えるべきか、各地での挑戦をヒントに掘り下げていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社御祓川 能登の人事部 コーディネーター 斉藤雄大</li> <li>・合同会社気仙沼の人事部 代表 小林峻</li> <li>・西粟倉事業協同組合 事務局長 森本真志</li> </ul>
<p>えすこな健康</p>	<p>WHOによる健康の定義とは、「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態である」としています(日本WHO協会訳)。健康は個人の問題にとどまらず、社会的なつながりや地域での暮らし方とも深く関わっています。それゆえにその実現方法は一様ではなく、地域特性や文化、社会資源のあり方によって多様な形があり得ます。</p> <p>地域特性を活かした「えすこな健康」とはなにか？ 個人が心身を整えるのみでなく社会的に満たされた状態を維持できるように、行政や事業者がどのような仕組みを作っていけるのか？</p> <p>この分科会では、各地で実践を重ねる登壇者のみなさまから、地域の中で健康づくりを推進してきた具体的な取り組みや課題をご紹介いただき、これからの『地域の健康づくりの在り方』をともに考えていきたいと思います。</p>	<p>光プロジェクト株式会社 代表取締役 杉村卓哉さん ことばとつくる木造建築士事務所 木造建築士 酒井大輔さん 株式会社OGATORE 理学療法士 尾形 竜之介さん</p> <p>進行：気仙沼まち大学運営協議会 成宮崇史</p>

**【えすこな共助】～みんなで価値をつくり、みんなで分かち合う。共助+共創の可能性～**

少子高齢化・人口減少が続き、単一事業による「規模の経済性」が成り立ちにくい地域では、複数事業による「範囲の経済性」を成り立たせていく必要があります。そのためには、日々の暮らしを支え合う「共助」に加えて、日々の商売・事業と一緒に価値を生み出す「共創」を積み上げていくことが重要ではないでしょうか。もしそうだとすると、共助から共創へと軸足を動かしていく中、地域自主組織、域内・域外の事業者、自治体といった主体それぞれが果たすべき使命・役割はどのようになっていくのでしょうか。すべてのテーマに共通するこの問いをみつめ、「総働」を考える一日を締めくくります。

株式会社うなん共創エネルギー／平野貴大  
株式会社エヌ・ティ・ティエムイー 執行役員／渡邊茂道  
各セッション登壇者の皆さん



### Day3 (10/9)

**「風の谷」への道筋～地域の総働で「できる」プロセスとは～**

今年7月に出版されムーブメントになっている『「風の谷」という希望』。同書では、持続可能な疎空間とは何かという「目的地についての問い」が体系的に示されています。他方、このLLMで見聞きしていただく雲南での対話は、そこに向かう「過程、道筋についての問いと仮説」になるのではないかと考えています。ローカルな日々の営みに、少しずつ「総働」への対話を積み重ねていくことこそ、風の谷が「できる」プロセスなのではないかと。

風の谷プロジェクトの「人間と自然の調和」パートの中心である太田直樹さんと一緒に、「風の谷」への道筋をめぐる対話を通じて、Day1,Day2を振り返り深めていく時間にします。

一般社団法人残すに値する未来／太田直樹  
株式会社ジー・ストラテジック・ビジョン／白石章二  
合同会社宮内舎／小倉綾子  
[進行]

株式会社CNC 矢田明子

### 振り返りセッション

Day1-Day2で見聞きし体験したことが滲み込んでいくように、いま話してみたいことを、参加者どうしで話す時間です。参加者の現場に持ち帰りたいこと、ここまで扱えなかったテーマ、もっと雲南を知る、など自由に希望を出していただきます。



### (4) 報告会 (3/22開催 えすこ会議の事例共有)

令和8年3月22日に開催されたえすこ会議の事例共有パートにて、Seedラボに関係した以下のメンバーが報告を行った。

氏名・団体名	発表内容
小倉健太郎氏 (宮内舎) 三原義之氏 (阿用地区振興協議会)	関係人口と取り組む農業と里山の再生
杉原雅也氏 (幡屋便利軒)	幡屋便利軒の理念、カラオケ喫茶研究所



阿用地区の発表



カラオケ喫茶の発表

### (5) 総括

本年度、Seedラボは従来のインプット中心の場から、「地域総働化に向けた創発的対話の場」へと方針を転換した。6つのテーマ別活動を通じて年間80回を超える対話やフィールドワークを重ね、さらにローカルリーダーズミーティング (LLM) では28個のセッションやフィールドワークを企画し、地域内外の多様な主体による重層的な関係づくりを実現した。

#### 【成果と可能性】

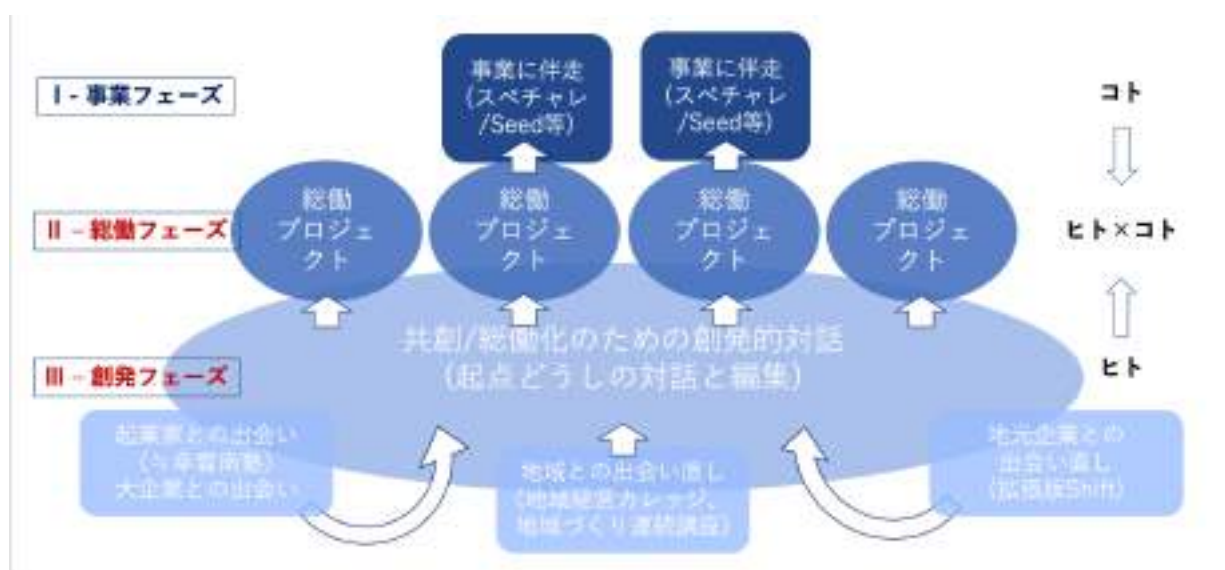
特に、LLMでは市内外から多くの参加者が集まり、雲南独自のまちづくり概念（えすこ・総働・鎮静化）に基づいた深い対話が行われた。これにより、阿用地区での里山保全と暮

らしを軸とした関係人口創出プロジェクトや、民谷地区の農業支援など、「特定地域で連携しているプレーヤー集団に対する伴走（あるいは参画）」の効果に手応えを得た。

また、Seed4期の応募者もこの集団に触れることで、地域住民との関係を構築した上で採択に至るなど、「総働のラボを通じた人材育成」というサイクルが機能した。下図のII層への資源の集中により、地域住民に期待されるインパクト創出が見えてくると考えられる。

### 【課題と今後への展望】

より実践的な「協働」へシフトしたことで、プロジェクトの質は高まったものの、初期段階のチャレンジャーが参画する際の敷居の高さが課題として浮き彫りになった。今後は、個別のプロジェクト推進（II層：総働プロジェクト）を支えつつ、より広い層が「えすこ」に集える学びの土壌（III層：創発）とのバランスを最適化する必要がある。



### <参考資料>

資料3-1：Seedラボ集客に向けての取り組み（Instagramのおっちラボページ）

資料3-2：R7年度報告書-えすこな起業・創業カリキュラムin雲南

資料3-3：ローカルリーダーズミーティングin島根県雲南市 特設ページ

資料3-4：LLM配布用リーフレット

資料3-5：ローカルリーダーズミーティング 参加者アンケート結果

資料3-6：LLM2025アンケート回答整理

## 4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

### (1) ローカルベンチャー協議会の概要および加入目的・背景

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した（後に「ローカルベンチャー協議会」に改称）。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手を呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活

動を開始した。

2021年度より第2期に入り、各地域でよりインパクト（変化）の大きい実践を生み出していくための支援を検討する場となっている。

代表幹事：岡山県西粟倉村

幹事自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、島根県雲南市、愛媛県久万高原町、

パートナー自治体：約10自治体

事務局：NPO法人エティック

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、雲南市で起業する都市部人材の獲得、コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETICより協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日の協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

本年度は、①都市圏の起業家型人材等とのネットワーク構築や人材誘致、②先進自治体等とのノウハウ共有による地域で起業家を持続的に育成確保していくためのプログラムや仕組みの開発を目的においた。

## (2) 令和7年度の協議会における協働内容

### ① 「オープン戦略会議」の企画支援

各地域の共通課題となるテーマを持ち寄り、全国のプレーヤーと協議する勉強会。

下記のイベントの企画運営を共同で行った。

2025/8/20 18時～19 時	えすこな共助ーみんなで価値をつくり、みんなで分かち合う。共助+共創の可能性ー ※NPO法人おっちラボとの共催	LV協議会	平野 貴大氏/株式会社うなん共創エネルギー 取締役  小俣 健三郎氏 /NPO法人おっちラボ 代表理事	11名
--------------------------	---	-------	---	-----

(資料4-1、7頁)

### ② 「ローカルリーダーズミーティングin島根県雲南市」のメイン企画

雲南市において以下のローカルリーダーズミーティング（以下LLM）を開催するにあたり、ローカル事務局である当法人が実行委員の中心を担った。詳細は前記4.3(3)Cのとおり。

<企画概要>

- 2025年10月7日(火)～9日(木)の3日間にわたり、島根県雲南市で4回目となるローカルリーダーズミーティングを開催。
- リビングラボとして、開催地に寄ったものにし、良い実験にするために、雲南には雲南に集中し、協議会メンバー(他地域)が得たい学び、気づきを引き出して自地域に持ち帰れることを目指した。
- また、地域でのカンファレンスやオンラインイベントも増えているなかで、ここでしか聞けないものを作ることを目的とし、雲南の個別の戦略/新総合計画がローカルインダストリー(ローカルベンチャー)との相乗効果を目指した。
- ①三新塔、②阿用、③鍋山、④波多、⑤吉田、⑥民谷の6地域に分かれ、「総働」を地域軸でみつめ、地道な地域づくりの姿勢から、「鎮静化」を身体知にすることを試みた。各地域で「総働」に取り組むキーマンから個人の物語や総働のプロセス聴き、体感した。
- 参加者内訳：
  - 参加者数(申込数)：238名(運営、ETIC含む)
    - U29：14名、協議会関係者(ETIC含む)：52名、一般：42名(内通常：6名、早割：36名)学生：1名、雲南/登壇者：129名
    - 初参加の方：177名(内協議会地域からの初参加は77名(厚真町：4名、気仙沼市：3名、雲南市：54名、西栗倉村：4名、久万高原町：6名、錦江町：3名))
  - 受付数(DAY1)：164名
  - 受付数(DAY2)：194名(FW、テーマ別分科会の累計)
  - 受付数(DAY3)：140名

(資料4-1、8頁)

### ③阿用地区での里山水源環境再生プロジェクトでの協業

前記4.3②の活動において、LV協議会より以下のようなサポートを受け協業した。

里山の水源環境改善プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系全体を見立てながら森林環境の再生を目指すプロジェクト</li> <li>・LLMのFWとして実施するほか、Code for Groundの太田直樹さんを紹介</li> <li>・一般財団法人ネイチャープレナー・ジャパンのフェローシップや企業版ふるさと納税調整中</li> </ul>
-----------------	--

(資料4-1、22頁)

### ④ローカルベンチャー協議会の運営への参画 自治体合同合宿

以下の概要の自治体合同合宿に参加し、ローカルベンチャー支援についてヒントを得た。

北海道厚真町にて、ローカルベンチャー事業としては10年の節目となるローカルベンチャー協議会合宿を実施。事業の出口戦略を共有しながら、10年間で育まれた知見と関係性を今後も活かせる体制について規約の改正をおこなった。

各地域の個別の戦略と論点について議論をし、その中から共通となる掘り下げたいテーマについて分科会を実施した。今後もこの座組を各地が活かせる体感をし、次年度は地域の重点的に取り組みたいテーマについて議論を深めた。

実施日時	名称	内容
1月28～29日	・ローカルベンチャー協議会合同合宿 ・総会	<b>■Day 1</b> 13:00 インTRODクシヨソ (チェックイン、目的共有) 13:15 各地域のプレゼンテーション 「2026年4月以降の地域としての戦略や構想、やりたいこと」 14:40 それぞれの地域が今後どうなっていくのか?の議論 18:30 懇親会 厚真町内のプレイヤーのピッチ・紹介 <b>■Day 2</b> 9:00 インTRODクシヨソ 9:10 今後の各地域・メンバーの事業推進に向けた議論 11:20 LV協議会 総会 12:00 クロージソグ 12:25 厚真町の個別戦略会議 兼 ラソチ

(資料4-1、25頁)

### (3) 協働の成果

#### ①全国の起業家型人材等とのネットワーク構築や人材誘致

- LLMにて、
  - 協議会関係者が多数登壇し、雲南市民にとって有意義な知見を提供してくれた。他地域の仕組みを雲南にも取り入れるべき、という参加者の声もいただいた。
  - 雲南の第3次総合計画をはじめとするまちづくりのスタンスを全国に発信する機会となり、協議会関係者の中では「えすこ」「総働」「鎮静化」といった共通概念でまちづくりを語るできるようになった。この結果、雲南での研修需要や共創機会の可能性を高めることができたと思われる。
- 協議会のネットワークにより、Code for Groundやネイチャープレナージャパン財団といった地域での取り組みを後押ししてくれる人材や機会とつながることができた。

#### ②起業家を持続的に育成確保していくためのプログラムや仕組みの開発

- 自治体合同合宿の中で、どの自治体も、移住者等の身軽な「ローカルベンチャー支援」から、より地元の事業者の支援や、そのエコシステムの中で育ててをしていくことに重心が移っていることを認識する機会となった。

### (4) 総括

今年度は何よりLLMの企画を通じて、協議会は、雲南での地域インパクトを最大限つくろうとする挑戦があつてこそ、それを支援するネットワークとして生きることが明らかとなつ

た。雲南で起業する人材の獲得にはつながっていないが、雲南の団体が本気で地域内に変化を生みたいと思ったときに、雲南ではえられない知見のある人材を繋いでくれる場として貴重である。

来年度は、協議会の機能が縮小され、自治体間の情報共有が中心となるが、あくまで雲南の起業家やプロジェクトのためになるかどうかを軸に、参加を検討していきたい。

#### <参考資料>

資料4-1：「ローカルベンチャー推進事業」に関する事業報告書

## 5. 総括～今後への提言～(佐野)

本年度のSeedラボは、従来のインプット中心の場から「地域総働化に向けた創発的対話の場」へと転換した。6つのテーマ別活動により年間80回以上の対話やフィールドワークを実施し、ローカルリーダーズミーティング（LLM）でも28のセッション等を展開、地域内外の多様な主体が関わる重層的な関係性を築いた。特にLLMでは、雲南独自のまちづくり概念に基づく深い対話が行われ、阿用地区の里山保全や民谷地区の農業支援など、特定地域におけるプレーヤー集団への伴走・参画の有効性が確認された。また、Seed4期の応募者もこの関係性の中で地域住民との接点を持ち、採択に至るなど、人材育成の循環も機能している。一方で、実践的な協働へと進んだことでプロジェクトの質は向上したが、初期段階の参加者にとっての参画ハードルの高さが課題として顕在化した。**今後は、個別のプロジェクト（II層：総働プロジェクト）を推進しながら、より広い層が「えすこ」に集える学びの土壌（III層：創発）とのバランスを最適化する必要がある。**

スペチャレ・ホープにおいては、前年度の課題であった「予備軍の発掘と育成の場の必要性」を踏まえ、新規事業や起業創業を志向する層への積極的なアプローチを行った。その結果、申請者2名に加え計11名への相談・伴走支援を実施し、事業計画のブラッシュアップや関係者との接続を支援した。中には来年度以降の申請を見据え、本年度を準備期間と位置付ける動きも生まれている。また、後期より開始した「えすこな起業創業探求プログラム」には7名が参加し、予備軍の発掘・育成に一定の成果が見られた。採択者については、教育機関や地域プレーヤーとの連携を通じて実証や事業展開、さらには海外展開の検討に至るなど進展があった。一方で、市内での具体的な成果創出には至らなかったため、**今後は地域事業者との連携を一層強化し、内外双方での実績・インパクトの創出に力を入れていく必要がある。**

また、4期目となる、起業型地域おこし協力隊「Seed」の公募をし、主に女性活躍・リスクリングの分野で地域にインパクトをもたらせる方の採択につながった。引き続き上記のLLM等で生まれた**関係人口等から、より多様な人材の流入や裾野拡大に向けた発信・仕組み強化が課題**である。

以上

# 雲南市におけるローカルベンチャー推進事業・研究プロジェクト企画推進 業務完了報告書

報告日：2026年4月22日

委託者：特定非営利活動法人エティック 理事 小泉愛子 殿

受託者：特定非営利活動法人おっちラボ 代表理事 小俣健三郎

参加者：合同会社宮内舎、株式会社うなん共創エネルギー関係者、雲南市内の個人事業主3名など

## 1. 業務の目的と実施背景

### ① プロジェクトの源流：森あそびラボから里山ツーリズムへ

本業務は、おっちラボが2021年度より着手したローカルベンチャー協議会と実施した「森あそびラボ」研究プロジェクトを端緒としている。同プロジェクトは、日本の国土の3分の2を占める森林を単なる「材木の畑」ではなく、新たな商流や人流を生み出す「森林空間」として価値化・マーケット化できないかという探究から始まった。2022年には「森あそびラボ」として、国内の複数地域とともに、森林を活用した関係人口の創出や、地域内外のプレイヤーとの共創による事業開発を探究し、雲南においては「たたら製鉄」を軸とするツアーを造成した。その後2024年には、これらの知見をインバウンド向け観光コンテンツ等への発展も見据えた「里山ツーリズム」というコンセプトへと再編・統合した。

本プロジェクトは、この数年にわたる里山・森林空間の価値化プロセスの延長にある発展形である。雲南市垂養畜という具体的フィールドでの活動をベースとして、その探究を「身体感覚の回復」と「経営的視座のアップデート」という、より深い精神的・実学的なレベルへと深化させることを目的としている。

### ② 本業務の核心

資本主義社会において看過されてきた「生命に対する身体感覚」を回復させ、現代の「経営的視座」へと接続・昇華させることがいかにしてできるか、及びそれをどのように身の丈の暮らしが息づく中山間地域の里山をフィールドとしてプログラムに落とし込むかを含む、仮説形成を含む研究開発を実施した。

## 2. 研究・企画の変遷と戦略的対比

### ① 起点：オンライン戦略会議（2月4日）

本プロジェクトのキックオフとして、大山流域での探求を先行させる秋元大氏、および大山流域の修験者である大原徹氏とのオンライン会議を実施した。

- **ゲストプロフィール**

- **秋元大氏**：元セグウェイ・ジャパン執行役員。大山流域プログラム・プロデューサー



- **大原徹氏**：一般社団法人 Bisui Daisen 代表理事。山陰の様々なフィールドを活かし 20 年以上にわたり体験を発信し表現する。海、川、山から身体知性を通して、自然のシステムを学ぶ「プラネタリーヘルス・ツーリズム」を中心に大山流域から根の国(出雲国)エリアの本質をさぐる。修験者。



- **実施内容**：おっちらボより雲南市で長年培ってきた「まちづくりのプロセス」を共有するとともに、宮内舎より阿用地区で実践してきた里山、川、田畑の循環を受け取る活動について共有した。また秋元・大原両氏より「大山流域身体化プログラム」の内容及び意図について説明を受けた。
- **導き出された対比構造**：
  - **雲南の特性（社会と経営）**：緻密な人間関係や合意形成に基づく「まちづくりのプロセス」が成熟しており、人間が自然に介入し、持続可能な環境を構築してきた歴史が色濃い。
  - **大山の特性（自然と畏敬）**：山から海までが近く、豊かな水を生み出している「大自然」そのものが主軸であり、古来から信仰の対象であったように、人間を圧倒する根源的な力へのアクセスが際立っている。
- **戦略的結論**：この「社会（雲南）」と「自然（大山）」という異なる角度の強みを「水の循環」という補助線で接続することで、現代社会システム・資本主義システムの適切な運用に必要な「土地の経営」の視座を得られる、「循環型の自己変容プログラム」が構築できるとの確信を得た。

## ② 研究の核心：「自己変容」の定義

本プロジェクトにおいて、参加者が到達すべき「自己変容」を以下の通り定義した。

- **身体性の回復と微細な流れの体感**：それまで単なる「風景」として眺めていた山の木々や沢に対し、意識に上らない足元の地面の下に存在する「見えない網目のような微細な空気と水の流れ・つながり」を身体的に察知する状態への移行。
- **生命価値への再照射**：無数の生物・微生物が死生を繰り返す「山全体が呼吸する一つの巨大な生き物」であることを体感し、自らもその循環の一部であるという感覚を得ること。この回復された身体感覚こそが、資本主義を作動させる「経営感覚」を、生命を搾

取する側から「生命を活かす側」へと変容させる。

### 3. フィールドワークおよび実地検証の詳細

#### ① 雲南市阿用地区：大地の経営と水循環の検証（3月5日）

- **フィールド：**阿用地区内、蓮華寺を頂く山の沢および金谷子（かなやご）神社周辺。
- **検証内容：**
  - 参加者のバックグラウンド共有後、宮内舎周辺の沢を散策。同所は、阿用神社のための禊場に連なり、今年度の水源環境整備活動により水流の改善と湿地の回復が進んでいる。この周辺の苔の状況から、山陰地方特有の湿潤な風が豊かに流れていることを確認した。
  - たたら製鉄の歴史が刻まれた金谷子神社周辺を散察。かつての「たたら」という大規模な大地の経営（人工的な地形改変）が行われ、荒神様などが祀られた重要な土地が、100年も経たないうちに、竹藪に覆われ土中の水の蓄積が失われてしまっているかを身体的に検証した。ゲストとの対話から、竹藪の根の浅さや土中の水分吸収が、山水減少の一因になっている可能性が感じ取れた。
- **参加者の反応：**30代のメンバーからは、「山の中で目の前にあるのに全く見えていなかったことを、深く感じ取る視座があることを知り、感動した」というフィードバックを得た。





## ② 出雲・須佐・沿岸：地質学的連続性の実証（3月6日）

- 内容：
  - 須佐神社の川底に露出する特徴的な黄色い岩盤を確認し、それが日本海に面する「稲佐の浜」の奇岩の岩盤と同種の地質基盤であることを地質学的視点から確認した。
  - ①と上記の内容を踏まえ、今後大山流域と雲南流域で本質的な連携をしていく可能性について、参加者一同で検討した。
- 意義・成果：
  - 内陸部（中流）と海岸部（河口）が地質レベルで一本の物語として繋がっている「流域の一体性」を客観的証拠として確保した。
  - 大山流域の圧倒的な自然への信仰を感じ取るプログラムを入口として、後日雲南で長期滞在をしながら暮らしの中に自然への畏敬を感じとれるプログラムに架橋していくこと、あるいはその反対といったような、輻輳的な研修プログラム（あるいはジャーニー）が設計できる可能性が見いだせた。たとえば大企業の経営層などをターゲットとして想定した。
  - また大山流域研究所の法人化と拠点施設の整備の見込みがあることから、同施設を共同利用する可能性も見いだせた。
  - さらに10月に京都で開催される国際流域フォーラム(仮)において、郡上、京北などといった同様の探究をしている地域とともに、流域の価値を発信していくという連携も考えられる。
  - 直近では、出雲流域を形作る日野川と斐伊川の両方の源流がある船通山（奥出雲町）への登山を企画すること、手ぬぐいのデザインとなっている下記の「出雲流域積層絵図」のイラストに雲南文脈のアイコンを追加していく作業を目指していくことにした。



(出雲流域積層絵図 by 文脈デザイン研究所 <https://ctxt.jp/daisen>)

### ③ (参考) 船通山：先人の知恵の身体化 (4月2日 ※事後継続活動)

- **内容**：修験者・大原氏のガイドにより、斐伊川源流点である船通山へ登頂。大山寺の住職の跡継ぎの方、大山プログラムの運営メンバー、他地域の修験者の方も参加した。
- **知見**：島根の大地を作る岩盤が露出した川沿いを歩き、先人たちが水の流れを遮らないよう丁寧に築いた石段の技術を観察。山頂から大山と日本海を同時に望むことで、かつて渡来人がこの過酷な大地に定着し、稲作を行おうとした際の「知恵」を敬意を持って受け止めた。
- **洞察**：山頂の「天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）」の碑文が、その先人の知恵全体を象徴しているという感覚を共有し、里山を歩くことによる視座変容の確信を得た。



#### 4. プログラム提案および成果物のアップデート

本研究の結果に基づき、次年度以降の事業展開として以下の具体的な提案を行う。

- 「出雲流域積層絵の手ぬぐい」の刷新：  
今回得られた「地質の繋がり」や「大地の経営」の知見を反映。具体的には、雲南の産業を象徴する木次乳業の放牧牛の図柄や、須佐・稲佐を繋ぐ地層、たたら跡の微細な水循環などを詳細に描き込み、プログラムの共通言語となるツールへとアップデートすることを提案し、デザイン面で実現可能かを検討している。
- 一体型ツーリズムの構築：  
大山の「自然への没入」と雲南の「まちづくりの知恵・経営」を往復する、連続的な「山陰版・自己変容ジャーニー」を提示し、相互送客を可能にする体制を構築する。
- 世代を超えた変容の「目撃」：  
大学生やおっちらボの若手メンバーが大山の身体化プログラムに参画し、その変容を大人たちが「目撃」することで大人も変容するプロセス。これを意図したプログラムとし、次世代のリーダーシップ開発のモデルとする。

以上、本契約に定める委託業務を適切かつ誠実に遂行したことを報告する。

# 令和7年度雲南市「エネルギー転換への 理解促進及び人材育成事業」 に係る報告書

事業期間：令和7年8月1日～令和8年2月27日  
企画運営：特定非営利活動法人おっちらボ

# 目次

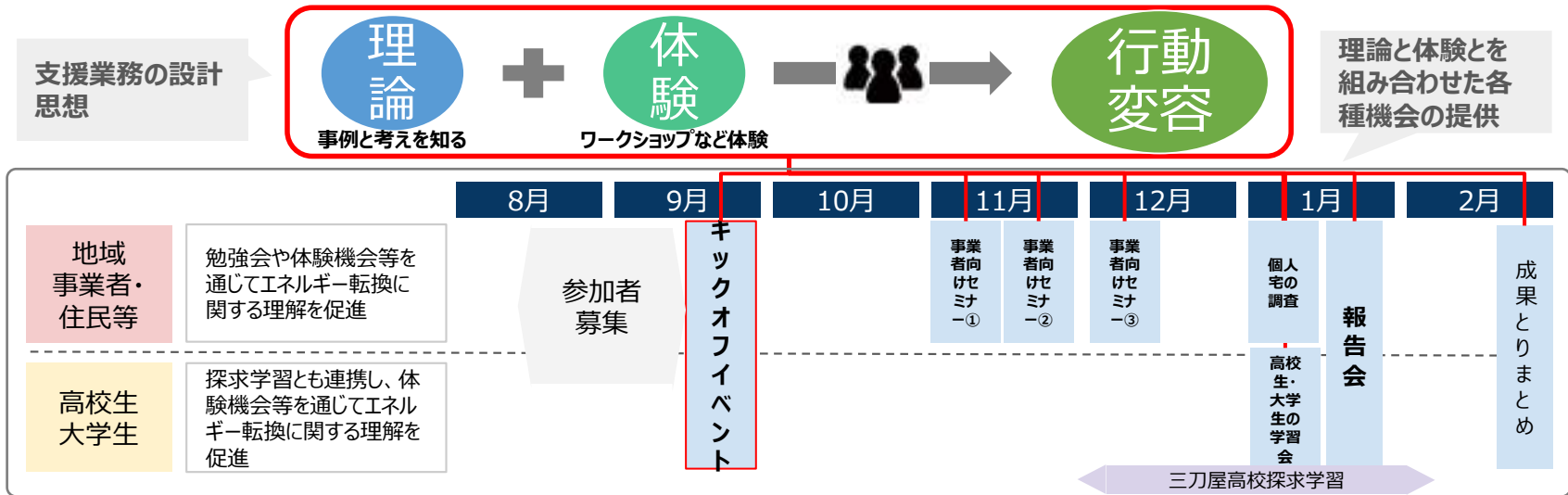
---

1. 雲南市エネルギー転換への理解促進及び人材育成事業業務概要・スケジュール
2. 実施事項
  - a)キックオフ：2025年9月30日開催（67名参加）
  - b)地域・事業者向けセミナー：
    - 2025年11月21日：地域自主組織向けセミナー（20名参加）
    - 2025年11月27日：事業者向けセミナー（19名参加）
    - 2025年12月10日：住民向けセミナー（21名参加）
    - 2025年12月～2026年1月：個人宅向け改修の募集・実施（2軒参加）
  - c)高校生・大学生の学習会
    - 2025年10月-2026年1月：三刀屋高校探究学習との連携
    - 2026年1月6日-7日：エネルギー転換に係るワークショップ
  - d)報告会：2026年1月29日開催（56名参加）
3. 事業成果（全体を通じて）
4. その他（団体概要）

# 1. 雲南市エネルギー転換への 理解促進及び人材育成事業 業務概要・スケジュール

# 1. 雲南市エネルギー転換への理解促進及び人材育成事業業務概要

- 本業務ではエネルギー転換の理解促進、課題解決に向けた取組を検討・実施できる力の育成、地域人材の早期育成、多世代が参画交流することによる理解促進を目的に、島根県内外の事業者、市内の高校生や住民などを広く巻き込み、(1)キックオフ、(2)事業者向けセミナー、(3)高校生・大学生の学習会、(4)報告会の4つの支援業務を実施。各種業務では事例と考える“理論”と“体験”とを組み合わせる機会を提供するとともに、うなんん身体研究所と連携し、参加者に対して事前・事後・後追いと3つのアンケート調査を実施し、意識変容、行動変容の結果を整理する。
- これらを通じて、地域のエネルギー転換に向けた理解促進や人材育成やに寄与し、地域内外の経済的・社会的環境に応じた安定的かつ適切なエネルギーの需給構造の構築を図ることを目指す。



## 2. 實施事項

## 2. 実施事項-a)キックオフ・・・概要

### 9/30開催 地域循環型ビジネスモデル発見フォーラム

- キックオフイベントとして「地域循環型ビジネスモデル発見フォーラム」を2025年9月30日に開催。
- 当日は(株)fabula代表 町田氏、コギコギ(株) 中島氏、「断熱学校」著者 内山氏を招き、市内の中小事業者・市民を対象にしたエネルギー転換関連事業を紹介。講演後はゲストも含めた3チームのグループに分かれ、対話や意見交換の場を企画・運営した。当日写真・アンケート結果等は次頁に示す。



有機物を素材に変える



交通×系統用蓄電池



学校の断熱



## 2. 実施事項-a)キックオフ・・・当日写真

- 当日は地元企業 + 金融機関 + 行政関係 + 森林組合など67名が参加。



当日の様子

## 2. 実施事項-a)キックオフ・・・事前事後アンケート結果

- イベントの参加前後でアンケートを実施し、特にエネルギー転換にまつわる仕組みや事業内容に関する理解（蓄電池を活用した電力売買の仕組みなど）の理解度が上がったことが示された。

以下、アンケートの自由記述より抜粋

- 企業への脱炭素（GX）の具体的取組（事業）について、一部実施しているが大いに参考になりました。
- 市有施設の断熱化はインシャルがかかるが、結果的に市民の負担が減る。市民に伝わるように説明が必要と感じた。
- コギコギさんのビジネスに関心を持ちました。雲南は市域がとても広く、自転車は採算性が難しいと思いますが、「やり方次第」なのでしょうか。併せ、蓄電池も関心を持ちました。
- 歳出を抑えることが大切だが、同時に歳入を増やすこと、その工夫をしていきたい。

No	設問内容	事前平均	事後平均	差
1	断熱が健康・快適性や光熱費に与える影響を説明できる	2.57	<b>3.28</b>	<b>+0.71</b>
2	サーキュラー（廃棄物、未利用資源の活用）による収益性のイメージがある	2.35	<b>3.07</b>	<b>+0.72</b>
3	蓄電池を使った電力の売買の仕組みを知っている	2.22	<b>3.10</b>	<b>+0.88</b>
4	断熱・省エネの重要性を感じる	4.38	<b>4.47</b>	<b>+0.09</b>
5	地域の未利用資源サーキュラーに前向き	3.56	<b>3.83</b>	<b>+0.27</b>
6	エネルギー転換は地域の事業機会になると思う	3.81	<b>4.07</b>	<b>+0.26</b>
7	今後3ヶ月以内に「情報収集・相談・実践」などアクションの意向	2.70	<b>3.18</b>	<b>+0.48</b>

イベント参加前後で優位な意識変化・理解変化が見られた

※1～5段階評価で実施。5に近いほど設問に対して肯定的な回答

## 2. 実施事項-a)キックオフ・・・その後

- なお、キックオフイベント終了後は、登壇者である内山氏から今後の高校生・大学生向けの学習会に対するアドバイスをいただいた。またfabula(株)社やコギコギ(株)社とは、地元事業者との連携可能性を探る打ち合わせや材料提供等を実施しており、エネルギー転換に向けた具体的な取り組みも引き続き検討が進められている。

内山氏より断熱ワーク  
ショップへのご助言



fabula(株)と労協うんなんとの意見  
交換



コギコギ(株)とたすき(株)との協業検討  
(電動付きシェアサイクル・系統用  
蓄電池の設置場所紹介)



## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー・・・概要

- エネルギー転換に関する意識・行動変容の縦断的調査として、うんなん身体研究所と連携。
- イベントの成果を客観的に可視化するとともに、今後の事業改善や政策提言に資するエビデンスを構築することを目的に、事業内で実施される一連のエネルギー転換関連イベント（キックオフ、地域・事業者セミナー等）が参加者の意識と行動に与える影響を定量的に測定し、評価を実施。
- 特に、イベント参加という「介入」が、個人の「知識（Knowledge）」、「態度（Attitude）」、「実践（Practice）」の変容（KAP変容）にどう結びつくかを明らかにする。

### 調査手法の設計概要①

#### 調査手法

単一群前後比較デザイン（Pre-Post Test Design）に、追跡調査を加えた縦断的パネル調査。同一の参加者集団に対して、3つの時点でアンケートを実施する。

#### リサーチクエスション

- **RQ1（意識変容）**： イベント参加を通じて、参加者のエネルギー転換（断熱、省エネ、再エネ等）に関する知識レベルと問題意識の重要度はどのように変化したか？
- **RQ2（行動意図）**： イベント参加後、参加者が自宅や自社で具体的な行動（情報収集、見積もり取得、DIY実施等）を起こす意図はどの程度高まったか？
- **RQ3（行動変容）**： イベント参加から3～6ヶ月後、参加者は実際に何らかの行動を起こしたか？ その具体的な内容と規模は何か？
- **RQ4（阻害・促進要因）**： 行動変容を妨げる障壁（コスト、情報不足、時間等）および後押しする要因（補助金、仲間、成功体験等）は何か？

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー・・・概要

### 調査手法の設計概要②

#### 対象者

- A群（事業者）：キックオフフォーラム、地域・事業者セミナーに参加する企業担当者（総務、施設管理）・経営者
- B群（市民）：高校生・大学生の学習会に参加する学生、保護者、一般市民

#### 調査スケジュール

- T1（事前調査）：各イベントの参加申込時、または当日の受付直後。ベースラインとなる知識・意識・行動意図を測定。
- T2（事後調査）：各イベント終了直後。満足度、知識の短期的変化、および直後の行動意図を測定
- T3（追跡調査）：次年度、実際の行動変容（＝最も重要な評価指標）と、その阻害・促進要因を測定。

#### データ分析手法

- 記述統計：各時点での回答の単純集計（平均値、割合）を行い、全体の傾向を把握。
- 比較分析：T1とT2、T1とT3の回答の変化を個人単位で追跡し、「対応のあるt検定」等を用いて意識・行動意図の平均値に有意な差が生じたかを統計的に検証する。
- クロス集計：属性（事業者/市民、役職、住宅種別など）と行動変容の有無をクロス集計し、どのような層が行動変容しやすいかを分析する。

測定項目	質問形式(例)	測定時点
1. 属性情報	職種、居住形態(戸建/集合)、築年数、家族構成など	T1
2. 知識 (Knowledge)	-「ヒートショック」「エネルギーパス」等の用語認知度 -住宅の断熱性能が光熱費に与える影響の理解度	T1, T2
3. 態度 (Attitude)	-「自宅/自社の断熱は、健康/経済にとって重要だ」 -「エネルギー転換への取り組みは、コストよりメリットが大きい」 (5段階リッカートスケール:全くそう思わない～強くそう思う)	T1, T2
4. 行動意図 (Intention)	-「今後3ヶ月以内に、自宅/自社の省エネについて情報収集したい」 -「今後3ヶ月以内に、断熱改修の見積もりを取得したい」 (5段階リッカートスケール)	T1, T2
5. 実際の行動 (Practice)	-【選択式】「以下のうち、実施した行動はありますか？」 (例:断熱DIY、専門家への相談、見積取得、補助金申請、製品購入、社内提案)	T3
6. 阻害・促進要因	-【自由記述/選択式】「行動を妨げた/後押ししたものは何ですか？」 (例:初期費用、情報不足、時間的制約、家族の同意、補助金、仲間)	T3
7. イベント評価	-イベント内容の満足度、講師の分かりやすさ	T2

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー・・・概要

### 11/20開催 地域自主組織向け勉強会＋住民向け相談会

- 雲南市内の30の地域自主組織の会長や事務局長・事務局を対象にエネルギー転換に資する勉強会を2025年11月20日に開催。
- 「断熱が日本を救う」著者 高橋氏を招き、世界的なエネルギー危機の背景やエネルギー転換の必要性を紹介すると共に、市民レベルで実践可能な手法として断熱の重要性などを説明。当日は地域自主組織の会長や役員等を中心に20名が参加。



当日の様子

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 地域自主組織向け勉強会 + 住民向け相談会

- イベントの参加前後でアンケートを実施し、エネルギー転換に向けて市民レベルで取り組みやすい具体策や費用対効果に対する理解度が高まったことが示された。

### アンケートの自由記述より抜粋

- ゾーン断熱は子育て世帯も住みやすくなる
- キーロコンポスの勉強会でぜひ今日学んだ断熱のトピックを取り入れたいと思いました。今後普及して連携できればと思いますので、よろしくお願いします。
- とても勉強になりました！窓大事！
- 民間物件の改修において、モデル的な断熱改修と空き家活用を一体化して実施したい（市産木材活用も進めたい）。活用できる補助金があれば是非教えてほしいです。市として居住性能の向上や、健康の向上をどう効果測定するのか。
- サーマ測定見える化
- 断熱済室と非断熱室の比較

No	設問内容	事前平均	事後平均	差
1	屋内の寒さ（18℃未満）が健康に与えるリスクと、断熱の効果を説明できる	1.80	3.42	<b>+1.62</b>
2	住民が取り組みやすい具体策（内窓・すきま対策・遮熱カーテン等）と費用対効果を概ね把握している	2.47	3.75	<b>+1.28</b>
3	断熱は地域の健康・家計・省エネに有効で、優先的に取り組む価値がある	4.00	4.42	<b>+0.42</b>
4	自分の地域で断熱普及を進める必要性を強く感じている	4.00	4.50	<b>+0.50</b>
5	住民に断熱の重要性を分かりやすく説明できる自信がある	2.07	3.33	<b>+1.26</b>
6	地域で学習会や相談会を企画・運営できる見通しがある	2.27	3.00	<b>+0.73</b>

イベント参加前後  
で有意な意識変化・  
理解変化が見られた

※1～5段階評価で実施。5に近いほど設問に対して肯定的な回答

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー・・・概要

### 11/27開催 事業者向けエネルギー転換勉強会

- 雲南市加茂健康福祉センター「かもてらす」の効率的な熱源システムへの更新に関して、改修事業者である(株)スマート・リソース（温熱設備導入デベロッパー）を話題提供者に招き、発注者側（福祉事業所、店舗、オフィス、工場などをもつ事業者）と受注側に向けた熱源改修やエネルギー転換に関する勉強会を2025年11月27日に開催。
- 当日は市内外の事業者など19名が参加。



当日の様子



## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 事業者向けエネルギー転換勉強会

- イベントの参加前後でアンケートを実施し、特にエネルギー転換時に活用可能な補助金や投資形態ごとの費用対効果などに対する理解度が上がったことが示された。

アンケートの自由記述より抜粋

- ESCO事業について知る良い機会となりました
- ガス屋としての立場から参加させていただきました。ガスのいいところ、電気のいいところを上手く活用しながら今後について考えていきたいです。
- 仕組みはよく分かったが、具体的な事例でコスト削減の効果（イニシャル、ランニング）をもっと知りたい。

No	設問内容	事前平均	事後平均	差
1	自己投資とESCO（初期費用を抑えた導入手法）など、投資形態の違いとメリット・留意点を他者に説明できる。	1.60	2.14	<b>+0.54</b>
2	島根県等の省エネ補助金の概要と、投資形態ごとの活用の考え方（対象・留意点）を具体的に説明できる。	1.00	1.92	<b>+0.92</b>
3	自社において、エネルギーコストの削減は喫緊の経営課題だと感じている。	3.40	3.43	<b>+0.03</b>
4	自社で省エネ設備を導入する場合に、投資形態の比較検討（自己投資／ESCO等）と意思決定プロセス（情報収集、稟議、業者選定など）を主導できる自信がある。	1.80	2.50	<b>+0.70</b>

イベント参加前後  
で有意な意識変  
化・理解変化が見  
られた

※1～5段階評価で実施。5に近いほど設問に対して肯定的な回答

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 住民向け勉強会&個人宅断熱モニター

### 12/10開催 住民向け勉強会

- 地元施工業者などをゲストに招き、訪問看護ステーションスタッフとも連携する形で住民向けのエネルギー転換に関する勉強会を2025年12月10日に開催。
- 当日は地域住民などを中心に21名が参加。



当日の様子

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 住民向け勉強会&個人宅断熱モニター

- イベントの参加前後でアンケートを実施し、特にエネルギー転換時に有効な対策（二重窓などの断熱や再エネ・蓄電池導入）に対する理解度が上がったことが示された。

### アンケートの自由記述より抜粋

- 簡単な窓対策は我が家で早速試してみようと思います！できれば内窓も設置したいです
- 両親（70代）の住む実家がやはり昭和の古い家なのでまずは実家での内窓設置などの可能性について両親と話し合ってみようと思いました。

No	設問内容	事前平均	事後平均	差
1	冬の家の中で、急な温度差（廊下や脱衣所が寒いなど）は、ヒートショックなど健康リスクになることを知っている	4.24	4.76	+0.52
2	家の中でいちばん熱が逃げやすいのは窓まわりで、窓の対策がとても大切だと知っている。	4.38	4.81	+0.43
3	厚手のカーテンやすきまテープ、内窓（二重窓）などで、今の家でも断熱をよくできることを知っている。	3.95	4.71	+0.76
4	太陽光発電や蓄電池を入れると、電気代の削減に役立つだけでなく、停電時の備えにもなることを知っている。	3.81	4.43	+0.62
5	国や市の補助金を使って、断熱改修や太陽光発電・省エネ機器を導入できることを知っている。	3.81	4.38	+0.57
6	冬でも家の中の温度差が少ない「暖かい家づくり」は、とても大切だと思う。	4.43	4.62	+0.19
7	断熱や窓の改修にお金をかけることは、健康と将来への「よい投資」だと思う。	4.10	4.29	+0.19
8	太陽光発電や高効率給湯機などの省エネ設備を入れて、光熱費を減らしたいと思う。	3.62	3.95	+0.33
9	雲南市で、こうした住まいの改善（断熱・太陽光・省エネ）が広がると、地域の安心や暮らしの安定につながると思う。	3.86	4.52	+0.66

イベント参加前後  
で有意な意識変化・理解変化が見られた

※1～5段階評価で実施。5に近いほど設問に対して肯定的な回答

## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 住民向け勉強会&個人宅断熱モニター

### 2026年1月中 個人宅断熱モニター

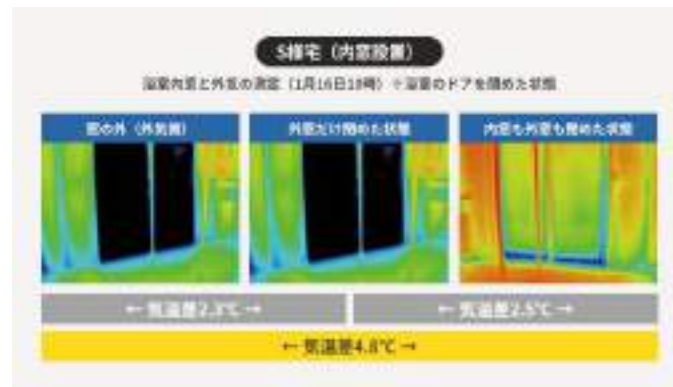
- 労協うんなんと協働とも協働し、個人宅を対象に高齢者宅2軒の脱衣所の断熱改修を実施。
- 処理前後の温湿度、電力消費、バイトルなどを測定することで健康と電気代への影響を調査し、個人におけるエネルギー転換の取組普及に援用する。



## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 住民向け勉強会&個人宅断熱モニター

- 実際の改修は以下の通り。主に浴室を対象にエネルギー転換に向けた断熱改修を実施し、断熱処理をしたことS宅は約5度の断熱効果、K宅は約12度の断熱効果が得られた。

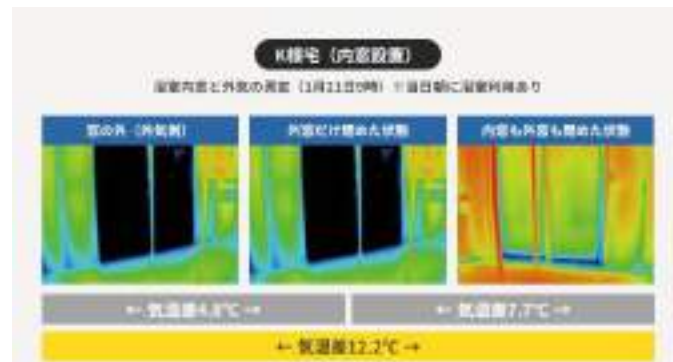
S様宅：浴室内窓設置



K様宅：脱衣所内窓設置（写真左）  
浴室天井に断熱材施工（写真右）

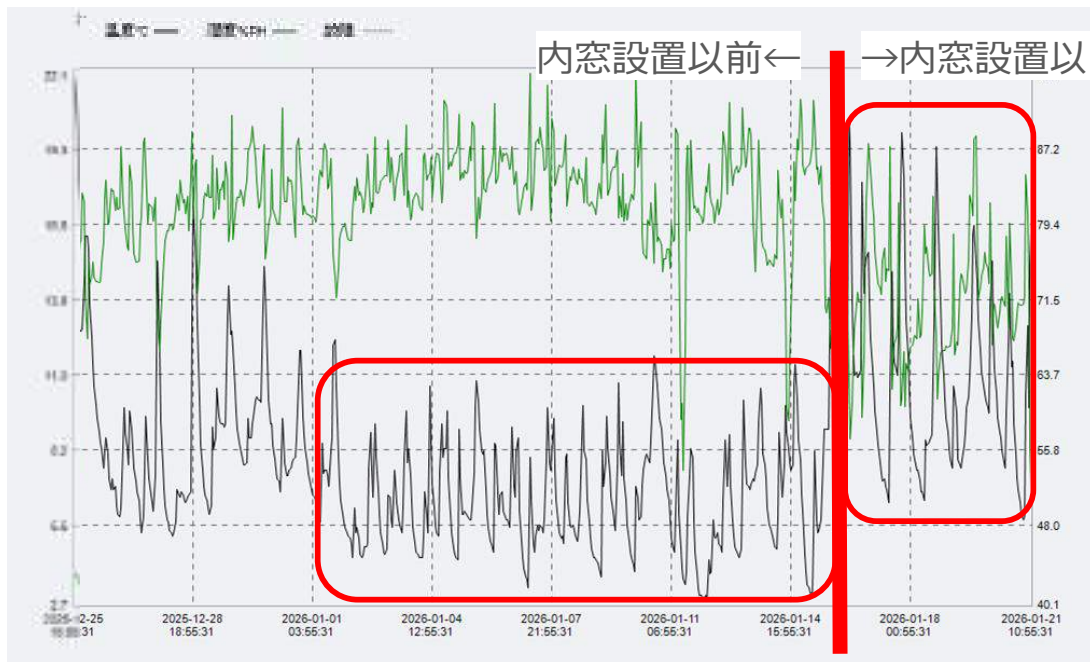


施工の様子



## 2. 実施事項-b)地域・事業者向けセミナー 住民向け勉強会&個人宅断熱モニター

- 断熱処理後のK宅の内窓設置前後の室内温度の結果は以下の通り。1月15日の内窓設置以降、室内温度の上昇や相対湿度の低下が見られた。体験者からも「設置前と比較して、入浴時の「ひんやり感」が少なくなったと感じる」などの感想があがった。



K様宅 12/25 データロガー設置⇒1/15 内窓設置⇒1/21データロガー回収

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 1/6-7開催 三刀屋高校における探究学習との連携

- 三刀屋高校における雲南式探究授業を通じてエネルギー転換に対する関心を高めることを目的に探究学習との連携を実施。
- テーマアドバイザーとしてNPO法人おっちラボスタッフが参加し、計5回の授業支援を実施した。

日付	内容	対応者
10/21	エネルギー転換に係る全体像説明	NPO法人おっちラボ うんなんコミュニティ財団
10/28	エネルギー転換に係る勉強会① 断熱ワークショップ実施に向けた断熱効果に関する事前学習	NPO法人おっちラボ うんなんコミュニティ財団
11/11	エネルギー転換に係る勉強会② 断熱ワークショップ実施に向けた断熱効果に関する事前学習事（測定内容、断熱による費用対効果の計算等）	NPO法人おっちラボ うんなんコミュニティ財団
1/13	エネルギー転換に係る勉強会③ 断熱ワークショップ実施後の気温測定等	NPO法人おっちラボ うんなんコミュニティ財団
1/20	エネルギー転換に係る勉強会④ 断熱ワークショップ実施後の気温測定等とりまとめ	NPO法人おっちラボ うんなんコミュニティ財団

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

- 以降、授業で説明した講義資料を掲載

### 地球温暖化の影響

#### 猛暑日・真夏日・夏日の年間日数

(1995~2024年の30年間)

	猛暑日		真夏日		夏日	
	平均	最多	平均	最多	平均	最多
札幌	0.3日	3日	10.7日	30日	56.9日	91日
仙台	1.3日	7日	26.8日	66日	80.4日	120日
新潟	3.9日	20日	39.0日	64日	105.3日	134日
東京	7.0日	22日	57.2日	90日	123.4日	153日
名古屋	16.9日	47日	73.3日	97日	141.7日	162日
大阪	16.3日	41日	77.7日	95日	145.4日	165日
福岡	10.0日	39日	65.7日	92日	141.6日	155日
那覇	0.4日	8日	105.0日	137日	215.6日	242日

猛暑日

夏日



真夏日

tenki.jp

出典：[https://tenki.jp/suppl/m\\_seta/2025/08/04/32691.html](https://tenki.jp/suppl/m_seta/2025/08/04/32691.html)

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 身近な地球温暖化の影響

局地的な大雨による土砂崩れの影響で日御碕灯台へ行く途中の道が通行止めに



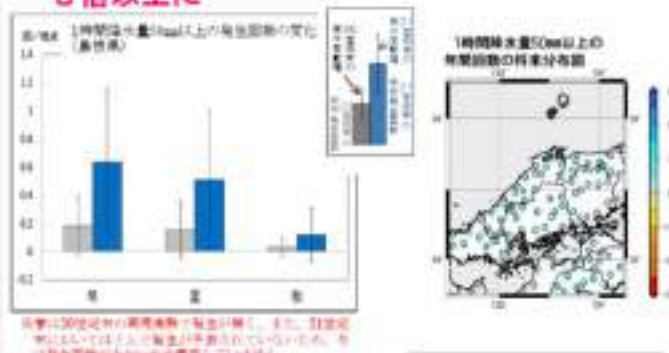
提供 島根ドローンサービスセンター

出典：<https://www.kma-net.go.jp/matsuyama/kyoiki/kyoiki-shimane.html>

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

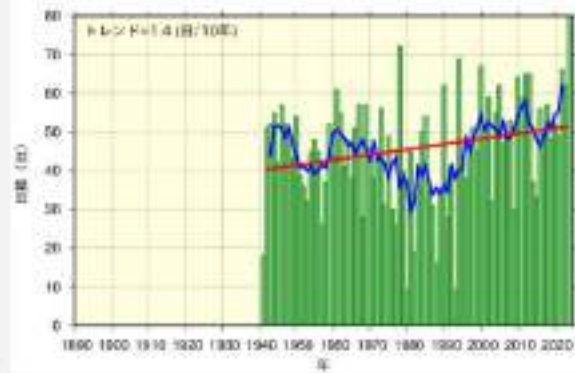
### 身近な地球温暖化の影響

▷1時間降水量50mm以上の発生回数が100年で3倍以上に



出典： <https://www.jma-net.go.jp/matsue/m/mission/climate/climate-shimane.html>

松江の年間真夏日日数



出典： <https://www.jma-net.go.jp/matsue/m/mission/climate/climate-shimane.html>

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 地球温暖化を和らげるために

温暖化や気候変動の原因となる温室効果ガスの排出量を抑える必要性

**脱炭素**

⇒ 全体として温室効果ガスの排出をゼロにする状態

出典：<http://hello-green.jp/column/decarbonization-01/>

イラスト出典：<https://www.poken.blog/carbon-neutral/>



温室効果ガスの発生源とは...



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 脱炭素社会に向けてできること

#### 脱炭素

⇒ 全体として温室効果ガスの排出をゼロにする

- 再生可能エネルギーの活用による温室効果ガス排出量の抑制
- 省エネ家電の導入による家庭から出る二酸化炭素排出量の削減

⇒ もっと、身近な暮らしの中でできることは？



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

皆さんが通う学校では？



Q. 今年の夏、特に過ごすのが大変だった校内の施設・部屋は？

→もし、少しの工夫で暑さを和らげることができれば、学校生活はどれくらい過ごしやすくなるだろう？

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 1/6-7開催 三刀屋高校でのエネルギー転換に向けたワークショップ

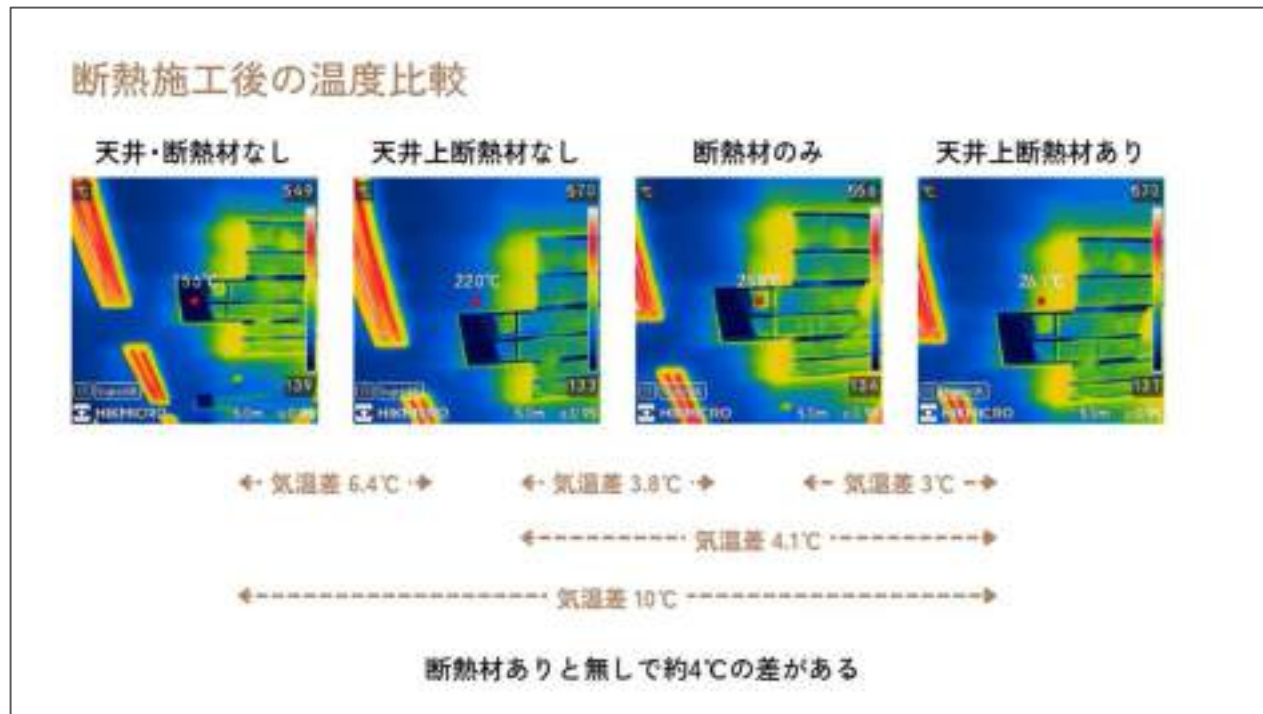
- 三刀屋高校における雲南式探究授業を通じてエネルギー転換に対する関心を高めると共に、実体験を通じた理解の深化と行動変容の促進を図ることを目的に、地域事業者と連携し、三刀屋高校の教室天井に断熱材を入れ、サーモグラフィを活用して前後の温度変化を計測するワークショップを開催。
- 1月6日～7日に開催し、生徒5名、先生2名、関係者3名の合計10名が参加。



当日の様子

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

- ワークショップ実施後の測定結果は以下の通り。断熱材の有無で約4度の気温差が見られ、一定の断熱効果が見られた。（なお、温度差は天井の温度であり、物体の接触面を測定したもの）



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

- 地元事業者と連携してエネルギー転換の必要性や断熱に関する知識をインプットするとともに、ワークショップ形式で実際の体験を行うことで、エネルギー転換に関しての関心を一定高めることができた。

### 生徒の感想

- 断熱材の有無で冷えの伝わりが体感できよかった
- 天井上が寒いことを再認識できた
- 様々な断熱材について教えてもらい勉強になった



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

- 以降、探求学習と連携し作成した高校生発表資料を掲載

### 熱のムダを減らす — 断熱が担う役割 —

三刀屋高校 2年 エネルギー転換ゼミ  
木村 大坂 出川 吉田 松田 大田 鳥谷 大坂 西村

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 課題

**エネルギー問題が世界中で課題となっている**  
世界で言われているエネルギー問題について考える必要がある  
高校生にもできるエネルギー問題の解決方法があるのではないか

### ミッション

**私たちにもできる断熱方法があるのではないか？**  
○身近にあるものを利用して、断熱効果があるか調べる  
○大人力を借りて、実際に断熱材を入れて効果を調べる

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 目的

#### 調べる

断熱（効果、費用、電力）について調べ断熱への理解を深める。様々な断熱法を調べ身近なもので断熱ができるのか、また断熱効果に優れたものはなにかを調べる。

#### 実験

○身近な素材としてアルミホイル、サランラップ、緩衝材（プチプチ）の3つを取り上げ検証する。部屋の窓に隙間なく貼り暖房を切ったからの温度の変化をまとめる。

○アドバイザーさんからの提案「内窓を付ける（二重窓の代わり）」「屋根裏に断熱材を貼る」の中から「屋根裏の断熱材」を取り上げ工事を行い、上記と同様の実験を行う。

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

実験内容：断熱材の種類による保温効果の比較

1. 窓への断熱材  
アルミホイル / サランラップ / プチプチの貼り付け
2. 天井裏への断熱材  
グラスウールの設置



ファンヒーター停止後に生じる温度の低下から  
各断熱材の効果を検証する

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 実験方法

- ①石油ファンヒーターで部屋を一定時間暖める
- ②ファンヒーター停止直後から5分おきに20分間、放射温度計で温度を測定する  
⇒窓側3か所、黒板側2か所、教室中央1か所、廊下側3か所の計9か所を測定
- ③測定したデータを比較し、4つの断熱材の効果を検証する



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

### 実験結果

素材5つ、場所9つで取った結果を下に指数関数  $y = a \cdot b^{(-x)} + c$  のグラフを用いてカーブフィッティングを行い求めた関数で、結果を比較する

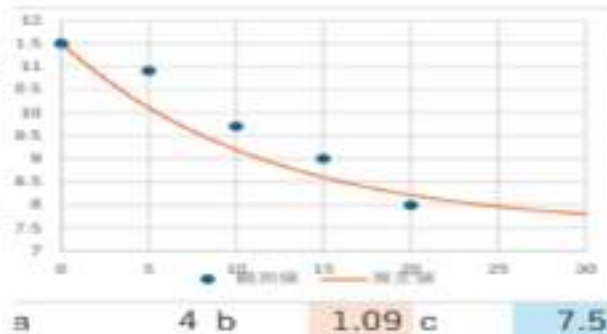
aの値はファンヒーターによる温度上昇量

bの値は温度の低下速度

cの値はその条件で最終的に収束する温度

ここでは同じ地点のcの値を等しくし、bの値の変化をもとに断熱効果の違いを考える

(bが1に近いほど断熱効果がある)



## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 実験結果

結果からわかったこと

- ・それぞれの素材が貼ってある外窓の上・真ん中ではプチプチの断熱の効果がみられなかった
- ・アルミホイル<サランラップ<**プチプチ**
- ・外窓上のbの値、aの値からも**屋根裏断熱材の効果がある**と思われる。
- ・中央上(壁)と中央真ん中(黒板)を比較すると、黒板は鉄板であるから熱伝導率が高く、放熱されたことが分かる結果となった
- ・**中央上**については、**屋根裏断熱材の断熱効果**があると言える。
- ・**中央下**はどの素材の効果もみられない。

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 分析結果（まとめ）

- ・アルミホイル、サランラップ、プチプチの効果については、外窓側と廊下側で逆の結果が出てしまったため、比較はできない。
- ・何も施されていない部屋とアルミホイル、サランラップ、プチプチの効果を比べると**プチプチに若干の効果がみられる。**
- ・**初期温度を比較すると、この実験においては屋根裏断熱材の効果があると思われる。**

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 今回の反省について

- ・ 実験を複数回行えたら良かった
- ・ 温度測定をする地点についてもっと厳密に位置を決定すればよかった。

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

### 今後の展開について

- ・ 床裏断熱材の効果の可能性

床は冷気が溜まりやすく、床裏からも冷気が入ってくるので、それを断熱材によって防ぐことでさらなる効果が見込める。

- ・ 窓断熱(内窓断熱)の効果の可能性

窓際は外からの冷気が入り、温度が下がりやすいので、内窓をつけ、断熱をすることで、窓際の温度も下がりにくくなる。

## 2. 実施事項-c)高校生・大学生の学習会

---

グラスウール



## 2. 実施事項-d)報告会

### 1/27開催 地域エネルギー転換人材育成 円卓えすこ会議

- 報告会は地域エネルギー転換人材育成「円卓えすこ会議」と題して、2026年1月27日に開催。
- エネルギー転換や断熱に詳しい小熊氏に登壇いただき、これまでの諸活動に対する助言をいただくと共に、ドイツ・オーストリアでのエネルギー転換事例や脱炭素地域づくりについて詳しい平岡氏を招き、脱炭素地域づくりの支援組織（エネルギー・エージェンシー）の役割を紹介。事業者・市民・行政が一体となる円卓形式を採用し、雲南市内でのエネルギー転換に向けた仕組みづくりについて対話・議論を実施した。

地域エネルギー転換人材育成事業  
報告会後援会「円卓えすこ会議」

2026  
1/27 (水)  
14:00~18:00  
チェリブカホール  
3階大会議室  
〒650-0121 兵庫県神戸市  
中央区南長町5-5-5 会場

エネルギー転換を進めることで、よりよい暮らしや学びの機会をつくりも実現することも目指して今年度開催を行った。「地域循環型ビジネスモデル構築フォーラム」「事業者向け断熱セミナー」「地域自主組織向け断熱交流会」「住民向け住宅セミナー」「高校での断熱ワークショップ」等、様々な取り組みや活動を通じて、断熱や脱炭素化の重要性や可能性を話し合う機会を多く提供いたします。ぜひ、ご参加ください。

ゲスト

平岡 俊一氏  
滋賀県立大学環境科学部准教授  
立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。NPO 法人気候ネットワーク、北海道教育大学釧路校などを経て、2018年から現職。市民参加・協働型の持続可能な地域づくり、脱炭素地域づくり推進のための仕組み・組織づくりについて各地でのフィールドワークをもとに研究。脱炭素地域づくり推進に向けた中間支援交流フォーラム企画チーム。著書に『エネルギー・ガバナンス』（学芸出版社、共著）『エネルギー自立と持続可能な地域づくり』（昭和堂、共編著）など

小熊 祐子氏  
慶應義塾大学スポーツ医学研究センター教授・大学院健康マネジメント研究科委員・慶應グローバルサーチインスティテュート慶應スポーツSDGSセンターセンター長。1991年慶應義塾大学医学部卒。同医学部内科助手、スポーツ医学研究センター助手、准教授を経て2024年4月より現職。医学博士。公衆衛生学修士（ハーバード大学公衆衛生大学院2002年卒）。2013年より、ふじさわプラス・テンの活動（「プラス・テン：普段より10分多く毎日カラダを動かすこと」を藤沢市で展開しているもの）をリードしている。スマートウェルネス住宅等推進調査委員会委員

主催 / 雲南省  
共催 雲南省環境保護科学研究院  
後援 雲南省環境保護科学研究院  
協賛 雲南省環境保護科学研究院  
お問い合わせ 事務局 電話 01054-48-1033 01054-47-7707 郵 info@hunan-ct.org



#### 平岡 俊一氏

滋賀県立大学環境科学部准教授  
立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。NPO 法人気候ネットワーク、北海道教育大学釧路校などを経て、2018年から現職。市民参加・協働型の持続可能な地域づくり、脱炭素地域づくり推進のための仕組み・組織づくりについて各地でのフィールドワークをもとに研究。脱炭素地域づくり推進に向けた中間支援交流フォーラム企画チーム。著書に『エネルギー・ガバナンス』（学芸出版社、共著）『エネルギー自立と持続可能な地域づくり』（昭和堂、共編著）など



#### 小熊 祐子氏

慶應義塾大学スポーツ医学研究センター教授・大学院健康マネジメント研究科委員・慶應グローバルサーチインスティテュート慶應スポーツSDGSセンターセンター長。1991年慶應義塾大学医学部卒。同医学部内科助手、スポーツ医学研究センター助手、准教授を経て2024年4月より現職。医学博士。公衆衛生学修士（ハーバード大学公衆衛生大学院2002年卒）。2013年より、ふじさわプラス・テンの活動（「プラス・テン：普段より10分多く毎日カラダを動かすこと」を藤沢市で展開しているもの）をリードしている。スマートウェルネス住宅等推進調査委員会委員

## 2. 実施事項-d)報告会（当日写真）

- 当日は地元企業＋金融機関＋行政関係＋森林組合など56名が参加



当日の様子



三刀屋高校による報告会での発表の様子



大学生による小水力発電に関する発表の様子

## 2. 実施事項-d)報告会（事前事後アンケート結果）

- イベントの参加前後でアンケートを実施し、特にエネルギー転換に係る人材育成の必要性や多主体連携のイメージについて、理解度が上がったことが示された。

### アンケートの自由記述より抜粋

- 小水力発電が形になるのを期待したいです
- フェストヒル市の例が大変参考になりました。「エネルギー自立」は家庭においても自治体でも重要なことがとても学びになりました。
- 断熱に関して参加者の中には問題意識を持っている方が多いということが印象に残りました。脱炭素をゴールにするとどうしても息詰まるがあるので、生活するまでの課題（社会課題）を切り口に脱炭素というツールがどう使えるかを検討していくべきだと思います。
- 高校生の発表を聞いて、会社として高校生へのエネルギー出前授業（太陽光、ヒートポンプ、断熱）を行ってみたいと思いました。とても応援したくなりました。
- 学生の活動が地域全体や県庁なども巻き込めて大きな動きをつくっていくとよいなと思いました。

No	設問内容	事前平均	事後平均	差
1	地域資源（再エネ・断熱・廃棄物等）を活かしたエネルギー転換の必要性を理解している	3.79	4.12	+0.33
2	雲南市での地域エネルギー転換や脱炭素人材育成の具体的なポイントや実践例を説明できる	2.29	3.12	+0.83
3	断熱改修・熱源転換（省エネ）による健康・経済・防災等の多重効果を知っている	3.18	3.84	+0.66
4	行政・地域・事業者・学校・住民が連携して進める地域プロセスについてイメージできている	2.61	3.54	+0.93
5	今後、自分の組織や地域・仕事でエネルギー転換の取組を「広げたいと思う」	3.89	4.04	+0.15

イベント参加前後  
で有意な意識変  
化・理解変化が見  
られた

※1～5段階評価で実施。5に近いほど設問に対して肯定的な回答

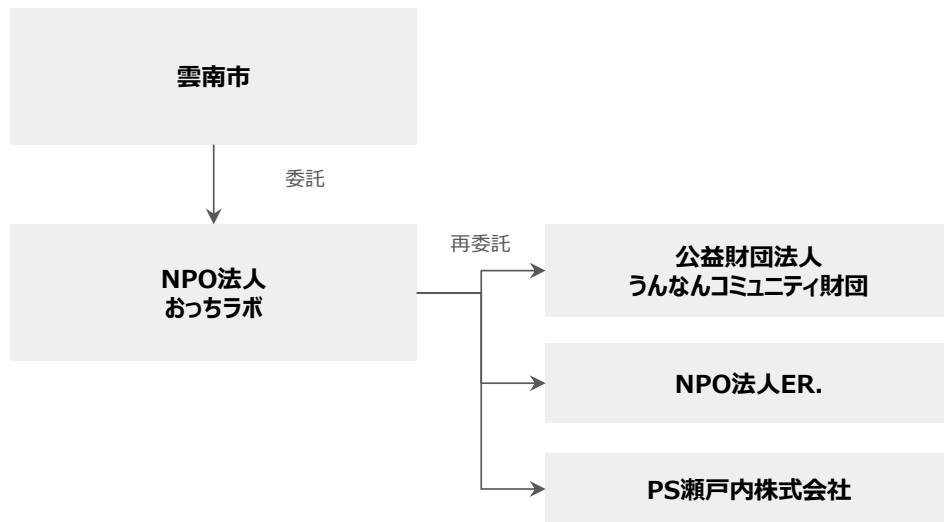
### 3. 事業成果（全体を通じて）

### 3. 事業成果（全体を通じて）

- 本事業においては、理論だけでなく、具体的な“実践”や“体験”を通じた理解の深化、行動変容のきっかけづくりを目指し各種機会提供したが、実際のエネルギー転換にかかるビジネスモデルを肌で感じ、また断熱などの切り口で体感することで、地域自主組織・地域住民・地域事業者に対して一定の知識の底上げや関心の高まりに一定寄与したと史料。
- 特に機会参加前後のアンケートを通じて、定量的な理解促進・行動変容の様子を追跡できた。いずれの機会も参加前後に意識や理解度の優位な変化が見られ、特に高齢者宅の断熱改修後は、エネルギー転換に係る具体的なアクションについて、住民同士の会話、議論が進められているところもあり、更なる関心の高まりや理解促進につながる可能性がある。
- また、高校生など若年層を巻き込んだ取り組みにおいては、探求学習を通じて体験したことに対し、事業者や市民からも高く評価いただき、それによって大人側の価値観変容や「若い子たちが頑張っているから自分たちも頑張ろう」というチャレンジに対しての意識醸成やエネルギー転換に向けた機運醸成に一定程度寄与できたと史料。
- あわせて、本事業の実施を通じて雲南市内で事業を行うエネルギー転換に寄与できる事業者（建築・住宅関係、ガス、木質など）との連携が取れてきており、今後、継続発展していくことで、市内における促進に向けた連携体となっていく可能性がある。
- 今年度は特に理解促進やそれによる行動変容に注力をし、学習や体験の機会、またアンケート分析などを実施してきたが、エネルギー転換に関しては供給側や需要側など様々な視点が必要となることから、どのようなシーンでどのような人材が必要か、引き続き検討をしていきたい。

## 4. その他（団体概要）

- 島根県雲南市は高齢化、少子化、若者の人口流出による人口減少など、日本の25年先の未来を知る課題先進地であるが、雲南市は2011年より「チャレンジ」をテーマに掲げ、子ども・若者・大人の各世代の3つのチャレンジの連鎖を起こすことで様々な課題解決につなげるアクションをスタートさせている。
- おっちラボは、若者のチャレンジ、「幸雲南塾」の企画運営を主な事業とし、雲南市で学びと実践の機会を繰り返すことを通して、地域の未来を切り拓いていく人材を育成している。
- 本事業の推進にあたり、雲南市とNPO法人おっちラボとで委託契約を結び、以下の体制で事業を推進。



# 令和7年度パタゴニア助成金実施報告書

NPO法人おっちらぼ

## 1. 事業のねらい

島根県雲南市を主として自治の進化に挑戦する地域の住民等に対して、人材育成や地域振興に関する事業を行い、地域に新たな価値と活力を創造するまちづくりの推進に寄与することを目的とする。

当法人は、「関わる人々が暮らしと地域を喜びとともに、自らつくっていける雲南市」になることを目指し、多様なチャレンジャーが挑戦する機会と応援し合うコミュニティが持続的に生成・維持される、“チャレンジの生態系”をつくる。5年以内に、雲南市における地域課題解決や地域振興のための事業プロデュースを5件以上手掛け、事業プロデュース集団を形成し、プロデューサーが生まれ続けるサイクルを創出する。とくに脱炭素や生物多様性といった地球環境分野においては、出雲神話やたたら製鉄の舞台となった里山の価値を再発見して、里山の自治的な維持管理の仕組み構築及び小水力発電による住民主体の発電事業創出を目指す。

## 2. 活動の長期的目標

- ①住民が里山を集約化し共同で活用・管理していく仕組み(コモンズ化)
- ②里山を活用して生業にする人材を育成する仕組み
- ③里山の生態系が荒廃するメカニズムを理解し、里山を人の手で再生していく取り組みを地域にインストールしていく。

## 3. 短期目標・KPI

- ①雲南の里山環境改善に共感し参加を希望する母集団が形成されている【30名】
- ②ワークショップ参加者の中から、次年度以降本プロジェクトへの参画を希望する人が発掘されている【5名以上】
- ③モデルとなる地点において、植生の状態などから生物多様性が改善される兆しがみえ、水量も回復している【1地点】
- ④持続的な里山の維持管理(生物多様性改善も含む)の仕組みを作るために市内の多様なセクター横断の検討会議が立ち上がる【参加団体数5団体以上(自治体含む)】

1. ワークショップの告知を兼ねたオンライントークイベント  
【市内・隣接市の参加者 20名】
2. 水源環境改善のための現地アセスメント(2025年6月)  
【実施地点数 3地点】【参加者数 15名】
3. 里山の生物多様性改善を考えるトークイベント(6月)  
【参加者数 20名】
4. 水源環境改善ワークショップ(9月、11月の4日間)  
【延べ参加者数 30名】
5. 里山の生物多様性改善の「自治」に向けた検討会議(11月)  
【参加団体数(役場/企業含め)5団体以上】

## 4. 令和7年度の成果

6月10日 里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY1『水源の森を歩き森の今を知る』

- 参加者:33名
- 人の手で整備する必要があると専門家が見立てた3地点(沢の森、金屋子神社、磨石山)を重点的に作業していくことが決まり、具体的にどんな手入れの必要があるのか専門家から学んだ。(2.水源環境改善のための現地アセスメント)

6月10日 里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY1懇親会『里山の生物多様性改善を考える』

- 参加者:22名
- 講師の坂田 昌子さん、瀬戸昌宣さん、ゲストの桐村里紗さんによる、日中の見立ての言語化や里山の生物多様性とはどういう状態なのかなどを話すトークイベントを開催した。(3.里山の生物多様性改善を考えるトークイベント)

9月25-26日 DAY2-3落ち葉や石で水源再生ワークショップ①

- 参加者:19名(4.水源環境改善ワークショップ)

11月23-24日 DAY4-5落ち葉や石で水源再生ワークショップ②

- 参加者:30名(4.水源環境改善ワークショップ)

11月23日 DAY4懇親会 明治大学川島研究室による卒業設計と今後の共創を考える会  
参加団体

- 明治大学川島研究室
- Code for Ground(旧土中環境オープンデータプロジェクト)
- 雲南市役所
- 雲南市地域おこし協力隊
- 島根大学3年 森林生態環境学研究室

(5.里山の生物多様性改善の「自治」に向けた検討会議)

①雲南の里山環境改善に共感し継続的に参加を希望する仲間。

4日以上参加:12名

2日以上参加:14名

②ワークショップ参加者の中から、次年度以降本プロジェクトへの参画を希望する人

3名+2団体(明治大学川島研究室、Code for Ground)

③モデルとなる地点において、植生の状態などから生物多様性が改善される兆しがみえ、水量も回復している【1地点】

沢の森では沢に落ちて詰まっている落ち葉や枝などを取り除くことでほとんどの参加者が「川の音が変わった」「よりダイナミックになった」と体感していた。沢の横にある湿地を整備することで、その地で今まで見つけられなかった昆虫や生き物が3種以上来た。湿地や沢の落ち葉を取り除くことで、植生にも変化が起き、シダやイチゴが繁茂し始めた。

## 5. 活動スケジュール

3月28日	告知用チラシ完成
5月20日	里山環境整備事務局キックオフ会議
5月23日	雲南共創エネルギーと共創の可能性を模索する対話
6月4日	里山環境整備事務局会議
6月10日	里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY1・懇親会
6月12日	DAY1振り返り
6月27日	第1回:宿題作業の会 with Code for Ground(竹切り)
7月12日	第2回:宿題作業の会(倒木の移動)
7月25日	第3回:宿題作業の会 with Sky High Mountain Works(沢整備)
7月31日	第4回:宿題作業の会(竹切り)
8月11日	第5回:宿題作業の会(沢の観察と落ち葉の取り除き)
9月11日	第6回:宿題作業の会(笹狩り)
9月18日	第7回:宿題作業の会(竹切り)
9月16日	講師とワークショップの流れ打合せ
9月25日	里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY2・懇親会
9月26日	里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY3
10月14日	DAY2-3振り返り
11月1日	明治-大学川島教授の展示見学
11月23日	里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY4・懇親会
11月24日	里山の水源環境改善プロジェクトin雲南DAY5
11月30日	第8回:宿題作業の会(広葉樹の落ち葉集め)
12月22日	DAY4-5振り返りの会
1月27日	来年度のチラシをデザイナーの阿部さんに相談
2月4日	大山流域研究所大原さんと船通山に登ろう会議
2月18日	チラシ内容協議
2月22日	第9回:宿題作業の会(竹炭作り)

2月26日	明治大学川島研究室の卒論成果発表会 陸前高田市民エネルギー視察受け入れ
3月4日	阿用蓮華寺にて原初舞踏体験
3月5日	大山流域研究所代表秋元と大原との共創会議1日目
3月6日	大山流域研究所代表秋元と大原との共創会議2日目
3月8日	第10回:宿題作業の会
3月17日	第11回:宿題作業の会(石を買う)
3月19日	モノクローム、明治大学川島視察受け入れ

(活動項目ごとに、活動内容、KPI、実施スケジュールを記載ください。)		
活動① 活動項目名	地域自主組織での再生可能エネルギーと地域づくりの勉強会の開催	
活動① 活動内容	<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プロジェクト主導で、自主組織単位での勉強会を2組織で行った他、議員向けに1回、エネルギー自治を実現する会向けに1回行った。勉強会の普及のための活動として地域自主組織への勉強会の案内を全30組織に行ったが、勉強会の実施につながらなかった。勉強会の実施が増えていない理由として、地域自主組織の1年の活動スケジュールがすでに決まっており、新たにプログラムを組み込む余裕がないことだと仮説を立てた。対策として、地域自主組織以外にもエネルギーや脱炭素の事に関心のある市民団体への説明・案内を行ったり、地域のお祭りやイベントに出店するという形で活動内容の紹介やゲームの体験などを行い、活動の知名度向上につなげた。</li> <li>その結果、議員向け再エネ講座の開催と、より多くの議員さんを巻き込んだ再エネ講座の開催の要望があった。(現在調整中)</li> <li>・出張再エネ講座では、今までアプローチできていなかった高校生が参加したり、大学生がスタッフとして当日手伝ってくれたりした。</li> </ul>	
活動① KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの地域自主組織(松笠、阿用、大東)とエネルギー自治を実現する会で1回目の内容の勉強会を計3回実施</li> <li>・イベント出店の出張型再エネ講座を3つの地域自主組織(松笠、多根、木次)で開催。</li> <li>・出張再エネ講座で高校生6名に電力バランスゲームと活動の冊子を読んでもらった。</li> </ul>	
活動① KPI 計画比	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会開催地区50%(松笠、阿用、木次、多根、大東) 回数:6/30</li> <li>・高校生参加50%(6/10)</li> </ul>	
活動① スケジュール	<p>4月21日 エネルギー自治を実現する会向けに勉強会の実施</p> <p>5月29日 松笠交流センターに勉強会の案内と説明</p> <p>6月18日 掛合交流センターに勉強会の案内と説明</p> <p>7月8日 春殖交流センターに勉強会の案内と水力発電の候補地の相談に乗る</p> <p>7月17日 松笠交流センターで勉強会の打ち合わせ</p> <p>7月25日 松笠交流センターで勉強会の実施</p> <p>7月25日 阿用交流センターで勉強会の実施</p> <p>9月5日・23日 出張再エネ講座の企画ミーティング</p> <p>10月12日 出張再エネ講座開催(木次地区)</p> <p>※10月16日出張再エネ講座雨天のため開催中止(三刀屋地区)</p> <p>11月16日 出張再エネ講座開催(多根地区、松笠地区)</p> <p>12月20日 議員向け再エネ講座(大東地区)</p> <p>12月23日 事務局定例ミーティング</p> <p>※1月28日議員向け再エネ講座議員さんの都合がつかず開催中止</p>	
活動② 活動項目名	小水力発電(揚水設備を含む)模型の制作	
活動② 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揚水を含む模型レベルでの実験機を作成し水力発電及び揚水発電の原理を正しく理解するために地域の勉強会と小水力ワークショップで計2回実験を行った。模型の設計と制作を小水力発電ラボの1回目と2回目のコンテンツとした。そのため、小水力ワークショップの活動内容では小水力ラボ第3回からの記述としている。</li> <li>合計29名の市民の方に参加していただき、「実験をすることで感覚的に水力発電の仕組みを理解することができて勉強になった」「自由研究でやってみたい」などの感想をいただいた。</li> </ul>	
活動② KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落差の違いで発電量に差があることや、水圧が高い状態の方が発電量が多いことなどがわかるとの感想をもらった。</li> <li>・市民29名参加(小水力ラボ第1回6名の参加、小水力ラボ第2回6名の参加、活動①再エネ勉強会in松笠17名参加)</li> </ul>	
活動② KPI 計画比	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100%</li> <li>・580%</li> </ul>	
活動② 実施スケジュール	<p>5月19日 小水力ラボ第1回 簡易な設計</p> <p>6月6日 資材調達組み立て</p> <p>7月4日 模型簡易制作・動作確認</p> <p>7月19日 小水力ラボ第2回で模型製作・実験の実施</p>	

活動③ 活動項目名	小水力ワークショップ
活動③ 活動内容	<p>関心のある市民・事業者・大学生を対象に、小水力発電の基礎原理から適地の探索、流量計測の実技までを学ぶ勉強会を計2回開催しました。有力な適地かどうかを判断するための条件を伺う他、必要な専門家の指導のもと、新たに導入した流速計を用いて八重山川で簡易計測を行うなど、実践的なスキル習得に努めました。</p> <p>先進地である佐賀への視察は参加者のリテラシー向上に寄与しましたが、一方で雲南市内の候補地視察では採算確保の難しさも浮き彫りとなりました。その後リバーヴィレッジさんの協力の元、長谷川と塩田ダムの適地調査をした。その中で、有力な適地候補である大東町久野地区の長谷川については、地元関係者と流量測定を実施し、現在もスタッフによる定期観測を継続しています。</p> <p>また、地域の新電力会社とは将来的な連携を見据えた意見交換を行うとともに、市民との質疑応答の場を設けるなど、地域全体での協力的体制づくりと理解促進にも尽力しました。</p>
活動③ KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小水カラボ第3回2名の参加、小水カラボ第4回7名の参加、小水カラボ第5回7名参加（午前4名、午後3名）</li> <li>・開催回数3回</li> <li>・高校生0人、0回の参加</li> </ul>
活動③ KPI 計画比	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回20%、第4回70%、第5回70%</li> <li>・開催回数75%</li> <li>・高校生0%</li> </ul>
活動③ 実施スケジュール	<p>8月8～9日 小水カラボ第3回開催</p> <p>8月19日・20日 雲南共創エネルギーさん主催の適地調査に同行し学ばせてもらった</p> <p>9月2日・5日 リバーヴィレッジさんとの適地調査直前ミーティング</p> <p>9月5日 春殖小水力発電候補地の流量調査</p> <p>9月8日 小水カラボ第4回開催</p> <p>9月18日 雲南の新電力会社うなん共創エネルギーの小磯さんと意見交換</p> <p>9月29日 リバーヴィレッジさんの適地調査の結果報告会</p> <p>11月15日 小水カラボ第5回開催</p> <p>12月18日 長谷川の流量調査</p> <p>1月17日 山王寺の適地候補を観察</p>
総括	<p>本年度は、雲南市における再生可能エネルギーの普及と「自分たちの地域でエネルギーを作る」機運の醸成と、市民自らエネルギーの事を考えられるリテラシーの向上を目指し、市民・事業者・大学生を対象とした多角的な啓発活動や実地調査を行った。</p> <p>普及啓発活動の柱として、地域自主組織や市民団体、議員等に向けた勉強会を実施した。特に、揚水発電の原理を含む模型製作ワークショップには計29名の市民が参加し、「感覚的に仕組みを理解できた」と高い評価を得た。また、専門家の指導による流量計測や適地探索の実技勉強会を計2回開催し、参加者の専門知識向上に努めた。これらの活動を通じて、リピーターとして継続参加する市民が増加し、地域における再生可能エネルギーのリテラシー向上と、導入意義を主体的に考える人材の育成につながった。</p> <p>実践面では、先進地である佐賀県への視察や雲南市内候補地の調査を行った。採算性の確保という課題も浮き彫りになったが、有力な適地候補である大東町久野地区の長谷川においては、地元関係者と協働で流量測定を開始し、スタッフによる定期的な流量測定を行っている。さらに、地域の新電力会社とも将来的な連携を見据えた意見交換や、市民との対話の場を設けるなど、事業化に向けた地域全体の協力的体制構築に尽力した。</p> <p>一方で、活動の広がりに関しては課題も確認された。当初、地域自主組織での勉強会を起点に小水カラボへ誘導する計画であったが、全30組織への案内に対し、開催は一部にとどまった。主な要因は、各組織の年間スケジュールが既に決定しており、新規プログラムを導入する余地が少なかったことにある。この状況を打開するため、今年度はターゲットを柔軟に拡大した。地域のお祭りやイベントへの出店、関心のある市民団体への個別アプローチへ切り替えた結果、これまで接点の少なかった高校生や大学生</p>
実施体制	<p>（実施団体の職員、臨時雇用者、外部委託先、協力者等の氏名・所属・役割を記載してください。</p> <p>※なお、助成金精算の際には中間および期末の会計報告書との整合性を確認するため、事業に携わった関係者全員分を報告書に記載していただきます。報告書に記載のない関係者への支払いはできかねます。）</p>
(1) 実施団体	小侯健三郎（プロジェクト責任者）、白石章二（プロジェクトリーダー）、中谷遥翔（プロジェクトスタッフ）、佐野慎太郎（プロジェクトスタッフ）
(2) 外部委託先	小水力専門家（株式会社リバー・ヴィレッジRiver Village Ltd.）
(3) 協力者	雲南市役所環境政策課脱炭素チーム